

Golden Days Abroad in Derbyshire

～ 姉妹都市 英国ダービーシャーを訪ねて～

第5回ダービーシャー高校生派遣 帰国報告書

2019. 3



目 次

■ はしがき	1p
■ ダービーシャー派遣学生・引率教諭・受入家庭名簿	2p-3p
■ 派遣日程	4p
■ 滞在中の当番日記	5p-18p
■ ホストファミリー紹介・派遣を終えて	19p-67p
■ 英語感想文 (Reflections on experiences in Derbyshire, written by each student in English)	68p-77p
■ 豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料	78p-82p

は し が き

豊田市長 太田 稔彦

豊田市と英国ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市は、1989年にトヨタ自動車株式会社が南ダービーシャー市バーナストーン地区に投資を開始したことを契機に交流を開始し、1998年1月に姉妹都市提携を結びました。以来、市民を主体とした様々な交流の歴史を重ね、相互理解と友情を育んでまいりました。

ダービーシャー高校生派遣事業は、バートン&サウスダービーシャーカレッジでの学校生活の体験、語学研修、現地学生との交流、ホームステイ等のさまざまなプログラムを通して、豊田市と同校の友好と相互理解を深め、国際感覚と知識豊かな人材を育てることを目指し、2014年度に開始しました。5回目となる2018年度の派遣事業でも、市内の高校及び高等専門学校に通う15名の生徒が約2週間の派遣を無事に終え、ダービーシャーの様子や現地での異文化体験の記録を本報告書にまとめました。少しでも多くの市民の皆様にご覧いただき、ダービーシャーの魅力や、姉妹都市ならではの交流事業の意義を感じ取っていただければ幸いです。

さて、昨年ダービーシャーと豊田市は姉妹都市提携20周年を迎え、さまざまな記念事業が行われました。この高校生派遣事業をはじめ、ダービーシャーとの交流が、今後、ますます盛んになり、さらに発展していくことを祈念しています。

また、今年は本市も会場の一つとなっているラグビーワールドカップ2019TM、来年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定で、本市においても海外からの来訪者の増加が見込まれています。都市の国際化の進展には、市の将来を担う若い世代の皆様の国際的な感覚と行動力が不可欠です。今回、参加した皆様は、豊田市について、もう一度見つめ直すことができたと思います。この経験をきっかけに、英語や他の学問をさらに学び、それぞれの立場で豊田市とダービーシャーの架け橋になっていただくことを期待しています。

おわりに、今回の高校生派遣事業にご理解とご協力をいただきましたご家族、学校関係者の方々をはじめ、派遣団に貴重な機会と経験を与えてくださったバートン&サウスダービーシャーカレッジの事務局、ホストファミリー、ダービーシャーの皆様にご心からお礼を申し上げます。

派遣生徒・受入家庭名簿 (全15名 男:2名、女:13名)

氏名	学校・学年	受入家庭
派遣生徒 松井 美桜 Mio Matsui 	豊田工業高等専門学校 2年	The Rowe Family
派遣生徒 桐原 万由 Mayu Kirihara 	豊田西高等学校 1年	The Lewis Family
派遣生徒 濱井 理沙 Risa Hamai 	豊田東高等学校 2年	The Rowe Family
派遣生徒 宮崎 里濃 Rino Miyazaki 	衣台高等学校 2年	The Kinnard Family
派遣生徒 大中 実季 Miki Ohnaka 	猿投農林高等学校 2年	The Fitzpatrick Family
派遣生徒 加藤 晃規 Koki Kato 	豊田工業高等学校 2年	The Simpson Family
派遣生徒 増田 ひかり Hikari Masuda 	足助高等学校 1年	The Brookes Family
派遣生徒 廣瀧 花乃 Hanano Hirotaki 	加茂丘高等学校 2年	The Phillips Family
派遣生徒 白鳥 紗衣 Sae Shiratori 	豊田北高等学校 2年	The Kinnard Family

派遣生徒・受入家庭名簿

氏名	学校・学年	受入家庭
派遣生徒 伊藤 さくら Sakura Ito 	豊田南高等学校 2年	The Baka Family
派遣生徒 中條 明星 Akari Nakajo 	豊田高等学校 2年	The Brookes Family
派遣生徒 加藤 実子 Miko Kato 	豊野高等学校 1年	The Kinnard Family
派遣生徒 山岡 桂菜 Keina Yamaoka 	杜若高等学校 1年	The Barlow Family
派遣生徒 吉坂 将 Sho Yoshizaka 	豊田大谷高等学校 2年	The Simpson Family
派遣学生 北野 美緒奈 Miona Kitano 	南山国際高等学校 1年	The Phillips Family

引率教員・受入家庭名簿

氏名	勤務先	受入家庭
引率教員 青木 麻衣 Mai Aoki 	衣台高等学校	The Richardson Family
引率教員 大槻 規子 Noriko Otsuki 	豊田東高等学校	The Richardson Family

派遣日程

月 日	時 間	活 動 内 容
3月10日(日)	10:45 15:20 16:50 17:25	中部国際空港 発 (ルフトハンザ航空第 737 便) フランクフルト国際空港 着 フランクフルト国際空港 発 (ルフトハンザ航空第 956 便) バーミンガム国際空港 着
3月11日(月)	終日	英語入門講座、オリエンテーション、キャンパスツアー
3月12日(火)	終日	英語講座 (ディベート含む)
3月13日(水)	終日	スポーツレクリエーション (ラグビー、卓球、バドミントン、ネットボール、バスケットボール)
3月14日(木)	終日	イギリス料理 (アフタヌーンティー) 体験、日本料理紹介
3月15日(金)	終日	英国トヨタ自動車訪問、バートン出身の英国下院議員との面会、ロンドン視察の準備
3月16日(土)	終日	ロンドン視察 (大英博物館、国会議事堂、ビッグ・ベン、バッキンガム宮殿)
3月17日(日)	終日	ホストファミリーと過ごす
3月18日(月)	終日	英国の幼児期に関する授業、サドバリーホール等視察
3月19日(火)	終日	リッチフィールド視察
3月20日(水)	終日	クリエイティブ・メディア・ワークショップ (現地の学生と一緒に肖像画を作成)
3月21日(木)	終日	エキシビション&カルチャーショー準備、 エキシビション&カルチャーショー、関係者との夕食会
3月22日(金)	8:55 11:30 13:45	バーミンガム空港 発 (ルフトハンザ航空第 953 便) フランクフルト国際空港 着 フランクフルト国際空港 発 (ルフトハンザ航空第 736 便)
3月23日(土)	9:20	中部国際空港 着

研修等の日程

平成30年 5月 8日(火)	派遣生徒募集・選考
~9月 3日(月)	
10月 5日(金)	派遣生徒決定
10月27日(土)	第1回事前研修会 (派遣日程・渡航説明等)
11月10日(土)	語学研修、旅行者からの渡航の説明等
~平成31年 3月 2日(土)	
3月 5日(火)	市長・市議会議長への出発挨拶、表敬訪問
3月27日(水)	副市長・市議会議長への帰国報告、表敬訪問

滞在中の当番日記

■滞在中の当番日記

3月10日（日）

松井 美桜

待ちに待った入国の日です。前日の夜は、イギリスでの学校やホームステイでの生活に期待でいっぱいでした。しかし、しっかりと英語で会話ができるのか、道に迷ってしまわないか、文化の違いで戸惑ってしまわないだろうかなど、初めての海外に対して不安も募らせていました。

朝、神田公園で両親に見送られた後、みんなでバスに乗って中部国際空港に来ました。空港に着いた時、遂にイギリスに行くのだという実感が湧き、より期待と不安が高まりました。飛行機に乗り、10時間を越えるフライトをしてドイツのフランクフルト空港に着きました。このフライト中は、緊張からか一睡もできませんでした。その後、フランクフルト空港からバーミンガム空港へ行き、そこからバスに乗って学校の前まで来ました。そこでホストファミリーの方々が私たちを待っていて、私はそこで初めてホストマザーと対面しました。その時私の頭は、マザーと英語でしっかり会話できるのかということがいっぱいでした。しかしマザーは私たちに合わせてゆっくり話してくださり、その不安はすぐ和らぎました。ホームステイ先に着いて、家の設備などの説明を聞きました。とても綺麗で可愛い家で、私はすぐに気に入りました。その後私たちから日本のお土産を渡しました。とても喜んでくれて、私にハグをしてくれました。

この日は長いフライトや時差で疲れがたまっていたため、マザーの作ってくれた夕食を食べた後、すぐに眠ってしまい、期待と不安を抱えたまま長い一日が終わりました。
(松井)



3月11日(月)

桐原 万由

この日は、初めての登校でした。朝学校に着くと、校内のカフェに案内され、そこでみんなの集合を待ちました。まず、講堂のような部屋で学校や授業、研修のオリエンテーションを受けました。そこで2週間学校生活を共に過ごしてくれたバディーたちと初めて会いました。私は何を話したら良いのか分からず、積極的になれなかったことを覚えています。BSDCの学生が身につけている学生証のようなカードも作成してもらいました。その後、校内を少し見て回り、第1回目の英語のセッションを受けました。教えてくださったのは、SAMという、Fish&Chipsが大好きな男の先生でした。内容は先生や自分自身の自己紹介、イギリスなどについての質問を考えること、イギリスについてのクイズなどでした。もちろん全て英語なので、ペアになった子と指示を確認しあったり、バディーに教えてもらったりしながらも、まだ慣れない本場の言葉に圧倒され、いつもならわかる質問に答えられず、もどかしい思いもしました。お昼はカフェテリアで食べました。並んでいる料理を自分で選んで、係の人に伝えるとパックに詰めてくれます。私はよくわからないまま、チップス(ポテト)とミートパイのようなものを注文しました。チップスの量は食べきれないほどあり、これがイギリスのサイズなのかと驚きました。昼からは校内見学の後、学校近くのモールを探検しました。服屋さん、カフェ、ドラッグストアなど、とても多くのお店がありました。(桐原)

↓カフェテリア



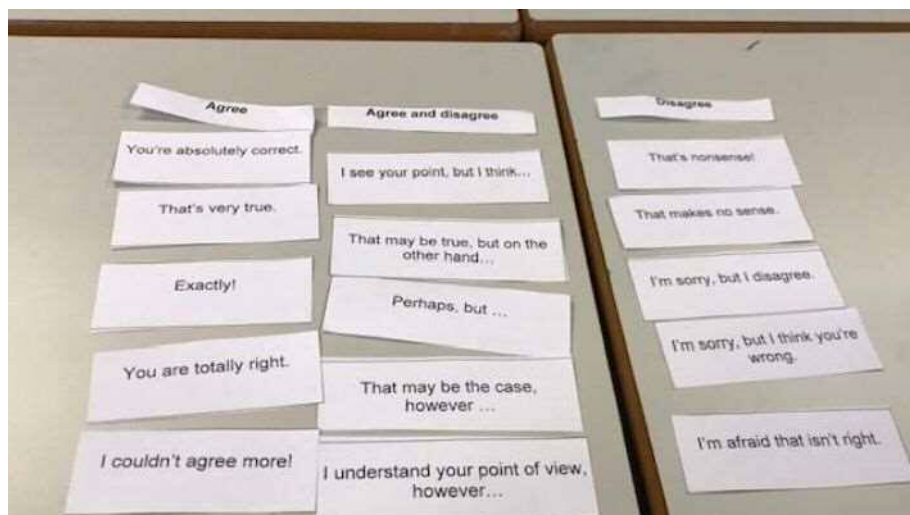
3月12日(火)

濱井 理沙

今日は日本を出発してから3日目です。午前中はBSDCで英語講座が始まり、ディベートの練習や英語を使ったコミュニケーションを行いました。英語を聴き取るのが苦手な私にとっては正直憂鬱な日になるのかな…とと思っていましたが、英語講座が始まってからは憂鬱な気分はなくなっていました。それは先生のおかげです。今日の先生は明るく優しいCatherine先生でした。先生は積極的に私達に話しかけてくれて、自然と

英語を話す機会がたくさんありました。英語が聞き取れなくても、言い方を変えてくれたりジェスチャーを使ったりしてくれたので、私は少しずつ英語を理解できるようになりました。さらに先生は、私達が英語でディベートしやすいように色々な工夫をしてくださいました。賛成意見や反対意見についてディベートしやすいようにヒントを教えてくださいました。

午後はメインである英語のディベートです。グループに分かれて「学校には制服が必要である」や「教室で携帯を使うべき」という題に沿ってそれぞれ賛成か反対の意見を考えました。その後グループでディスカッションを行い、意見をまとめてディベートをしました。相手の質問に対して良い受け答えをするのが難しかったです。グループのメンバーで話し合って伝えるまでがコミュニケーションでした。いくら準備をしても、自分の英語力の無さを実感せざるをえませんでした。でも今日のおかげで少し英語を話すことに自信が持てました。(濱井)



3月13日(水)

宮崎 里濃

今日はスポーツレクリエーションをする日でした。スポーツレクリエーションでは、4つのチームに分かれて卓球、ネットボール、バドミントン、バスケットボール、タグラグビーをしました。チームにはバディや現地の方々もいて、スポーツ中のコミュニケーションも英語でしました。いいプレイをしたときは「Nice」と言ったりハイタッチをして、失敗したときは「Don't worry」と声をかけたりして同じチームの人達と協力し合うことが出来ました。

日本ではあまり聞いたことがないネットボールとタグラグビーは、競技をするまでルールどころか、どんなスポーツかもほとんどわかっていませんでしたが、やってみるとどちらも楽しく、特にタグラグビーではタグを取られないように体を捻ったり、スライディングをしたりしていて、やっている人も見ている人もとても盛り上がりました。ネットボールは、バスケットボールのようにドリブルしたり、シュートを打つときにジャ

ンプをしたりしてはいけないというのがルールでした。最初のうちはドリブルしたり、シュートを打つときにジャンプをしてしまったりと、ルールを間違えてしまうことが多かったのですが、競技をしているうちに慣れて、どんどん楽しくなっていました。



お昼ご飯の時間では、みんなで英語版のしりとりをしました。日本のしりとりとは違って「ん」のように終わりが無いのには驚きました。

この日は1日中運動していたのでとても疲れた1日でした。(宮崎)

3月14日(木)

大中 実季

今日はアフタヌーンティー体験を行いました。

BSDCの生徒さんとグループを組み、それぞれスコーンやサンドイッチなどアフタヌーンティーに必要な料理・お菓子を手作りしたり、お皿やナプキンの置き方などを教わりました。

私のグループはヴィクトリアサンドイッチというものを作りました。沢山の量を用意しなければならなかったため、生地を混ぜる工程がとても大変でしたが、BSDCの生徒さんと様々な会話をしながら楽しく体験することができました。

全ての準備が完了したところでアフタヌーンティーが始まりました。

私のテーブルには5人もBSDCの生徒さんがいて、私1人だけ日本人だったので話せるかとても不安でしたが、積極的に話しかけてきてくださったおかげで会話がとても盛り上がりました。料理・紅茶は自分達で用意したということもあり、よりいっそう美味しく感じました。

午後は日本料理紹介を行いました。

私は5種類のどんぶりをテーマに5分間話しました。とても緊張してしまいましたが、沢山の人が「よかったよ」とスピーチを褒めていただいたので、今まで頑張ってきた練習してきた良かったなど強く感じました。昨日のスポーツデーの疲れも少し残っていましたが、アフタヌーンティーはもちろん、BSDCの生徒とコミュニケーションをとる機会が多かったので、とても充実した1日になりました。(大中)



3月15日(金)

加藤 晃規

英国トヨタ自動車訪問

今日はトヨタモーターマニュファクチャリング UK:バーナストーン工場を訪問しました。この工場は、1990年に完成したそうで、100年後の2090年になったら開ける予定のタイムカプセルの説明をして頂きました。カプセルの中には、当時の新聞や酒、車の設計図、ミニカーなど色々なものが入っているそうです。イギリスには、トヨタ自動車の工場が2つあります。今回訪れた工場の方がもう一つの工場よりも圧倒的に大きく、プレスやペイント、テスト運転などたくさんの事を行っています。今年の1月からは新型カロラの生産を始め、その工場の中をカートで見学させて頂きました。工場の中では、部品の移動などはほとんど機械やロボットが行っており、思っていた以上に人が少なかったです。また、しっかりと安全管理がされていて驚きました。お昼は、ディーラーを育成するアカデミーの生徒さんたちと食事をし、将来の夢などを語り合い、とても楽しく過ごしてあっという間でした。午後は、工場についてのプレゼンテーションを聞いたあと、実際にアカデミーの見学をしました。アカデミーの中は、生徒のみんなが真剣に授業に取り組んだり、実習を行ったりしていました。また、社員の方々が実際に取り組んでいるというトレーニングを体験しました。ブロックをひっくり返して穴に入れるトレーニングは、案内をしてくださった方はとても簡単そうに9秒程でやってい

ましたが、実際にやってみると 12 秒、13 秒かかってしまい、とても難しかったです。
とても貴重な体験が出来た 1 日でした。

(加藤晃)



3月16日(土)

増田 ひかり

今日はロンドンにみんなで行きました。私の憧れの街だったロンドンに着いたときは、すごく興奮しました。見るものすべてがオシャレで、かっこよくてびっくりしました。

まず、大英博物館に行きました。たくさんの貴重な展示品があってすごく興奮しました。1時間しか見る時間がなかったけど、楽しむことができました。

次にAPPLE MARKETに行ったらランチと買い物をしました。多くの人が集まっています。私はそこでチョコレートと紅茶を買いました。次にビッグ・ベンに行きました。工事中でちょっと残念だったけど、イギリスのシンボリック建物を見られて良かったです。

そして、最後にバッキンガム宮殿に行きました。ずっと行ってみたい場所だったので、見えた時はすごく感動しました。予想よりも大きくて、門も綺麗で圧倒されました。

初めてのロンドンはたくさんの刺激を受けました。日本にはない文化を体験でき、たくさんのことを学ぶことができました。1日でいろんな場所を回ることができて、すごく充実した日になりました。(増田)



3月17日(日)

廣瀧 花乃、白鳥 紗衣

今日は1日ホストファミリーと行動する日でした。私はブラックカントリーミュージアムへ連れて行ってもらいました。私のホストマザーは仕事だったため、引率の先生方とそのホストファミリーの方が一緒に連れて行ってくれました。先生方のホストファミリーはとても優しい方で、初めて会って少し緊張している私にたくさん話しかけてくれました。

ブラックカントリーミュージアムは産業革命時代の建物などがある博物館でした。最初はどんな場所だろうと思っていたけれど、落ち着いた雰囲気のある街並みを歩くことができる素敵な場所でした。

イギリスの天気はとても変わりやすく、晴れて暖かいと思ったら突然、ひょうが降り出してとても寒くなったりして大変でした。天気からもイギリスを感じることができました。



1つ1つの建物の中に1人、現地の方が座っていて、文字ではなく言葉でその建物の説明や当時の暮らしについての話を聞くことができました。実際に話を聞くことで昔のイギリスをより近く感じることができて、とても良い経験になりました。

この博物館は地下へ行って石炭の採掘現場を探検できるツアーがあって、ホストファミリーの方が連れて行ってくれました。地下はとても暗く、こんな所で仕事をしていただんだなと思いました。

当時のイギリスの生活や文化を感じられる1日でした。(廣瀧)



今日はホストファミリーと過ごすという一日でした。私のホストファミリーは全員クリスチャンです。教会に行ってみたいという気持ちもありましたが、マナーもよく分からず、ホストファミリーにとって大切な、毎週日曜日の礼拝に一緒に行っているのか、それも分かりませんでした。すると、なんと、いつものスケジュールを変更して私たちの行きたかったオックスフォード大学に連れて行って下さったのです。

オックスフォード大学は英語圏では世界最古の総合大学で、大学ランキングでも常にトップレベルの大学です。指導的政治家を各国に多数、輩出しているようで、日本の皇族の留学先のひとつとしても有名です。

映画「ハリー・ポッター」に出てくる食堂のモデルにもなったこの大学は、ぜひとも一度、この目で見てみたかった場所でした。ダイニングホールは、今も学生や教授の食堂として使われているそうです。ステンドグラスなど、ゴシック建築の美しさを目のあたりにして、今ここに自分が立っていることが信じられないほどでした。歴史を感じさせる荘厳な建物は圧巻で、息を呑むほどの美しさです。

ランチをファミリーと食べた後に、オックスフォードの町を散策しました。「不思議の国のアリス」の作者のルイス・キャロルはオックスフォード大学の卒業生であり、数学教授でもあったので、「Alice's Shop」というアリスのお店がありました。店内はすべてアリスのグッズで埋め尽くされていて、とても可愛かったです。私はポストカードやトートバッグなどを買いました。



映画のモデルになった食堂

毎日忙しく働いているのに、日曜に片道2時間もかかるところまで連れて行ってくれたファミリーのおかげで、こんなにも素敵な経験をすることができました。オックスフォードは、いつかもう一度訪れたい場所のひとつです。(白鳥)

3月18日(月)

伊藤 さくら

今日は午前中に幼児期に関する授業を受け、BCDCで昼食を食べてから Museum of childhood と Sudbury Hall の視察に行きました。

午前中の授業ではイギリスで遊ばれていたおもちゃについて、YouTube の動画やバディとのコミュニケーションを通して時代ごとに学びました。この授業から、イギリスにおいても富裕層と貧困層での格差があったことが伺えました。

午後は車で現地に向かいました。2つの施設は隣接していて二組に別れて見学することになり、私は先に Museum of childhood へ行きました。Museum of childhood では年代ごとにおもちゃが展示されていて、遊ぶことが出来るものもありました。昔ながらのものの中には、中国ゴマのようなものやけん玉に似たものもあって驚きました。近代に近づくにつれ、パックマンのようなゲームや、バービー人形、ルービックキューブなど自分たちが親しんだおもちゃが増えて、皆楽しそうに遊んでいました。私が気になっていた煙突掃除の子供についても展示があり、煙突の狭さを体験することも出来ましたが、思っていたよりも狭く、過酷な状況を思い知らされました。

Sudbury Hall は 17 世紀の見本としてデザインされた、職人技を伝える建造物です。この建物の目玉はチャールズ 2 世の家の長いギャラリーとすることで期待しながら見に行ったところ、期待以上に長く、こんなにも大きい部屋を何に使うのかと不思議に思いました。それだけではなく、書斎やベッドルームなどさまざまなところに絵画が飾っており、生活の豊かさを感じました。(伊藤)



3月19日(火)

中條 明星

今日は Lichfield に行きました。

Derby から車で 1 時間ほどのところにある街で、Lichfield Cathedral と Erasmus Darwin House を見学しました。

Lichfield Cathedral はイギリスにある唯一の三本の塔がある教会で、日本にはない見た目と大きさにびっくりしました。中に入ると、ステンドグラスを見ることができ、とても古い建物ですが綺麗に残っていて凄いなと思いました。

Erasmus Darwin House では close という看板がかかっていましたが、特別に開けてもらい 1 階のみ見学をしました。1 階では彼の発明を見たり、実際に体験をしたりしました。光を当てて人物を映し出し、映し出された影をなぞったり、2 つの鉛筆が棒で繋がっており、片方の鉛筆を動かすと同じものを 2 枚書くことができる体験をすることが出来て、驚くことだらけでした。

昼は Afternoon tea を食べました。色んな種類のものが並んでいて、食べる手が止まりませんでした。店員さん達もとても優しく、写真を撮ってくれたり、日本語でおもてなしをしてくれたりしてとても嬉しかったです。

レンガ造りの建物が沢山並んでいて、昔ながらの街並みを体験出来るととても素敵なおところでした。(中條)



3月20日(水)

加藤 実子

～クリエイティブメディアワークショップ～

午前) BSDC にあるフォトスタジオで写真撮影をしました。私たちの班は、初めに三脚と壁、小道具を使い撮影をしました。次に本格的なスタジオで大きな布を使って写真を撮りました。扇風機で風を送ったり、布をかぶったり、カメラ側の体験など普段できない事をしました。ポーズをとるのが恥ずかしく、カメラのピント調節が難しかったです。最後に、今まで使った一眼ではないカメラで撮影しました。シャッターを切ってから 10 秒間動いてはダメだったのが、すごくしんどかったです。

午後) BSDC の学生とペアになり、お互いの自画像作成をしました。その後、午前中に撮った写真とコンピューターを使い、グラフィックデザインの作成をしました。すごく細かくて目が疲れるので苦戦しましたが、なんとか完成する事が出来ました。私とペ

アになった子が、作った画像をカラーにし、メールで送ってくれました。すごくきれいに仕上がっていて嬉しかったです。専門的なことを学び、体験し、とても興味深い1日になりました。(加藤実)



3月21日(木)

山岡 桂菜、吉坂 将

カルチャーショー準備&カルチャーショー

朝、BSDCに登校した後、バディ四人と一緒にカルチャーショーの準備に取り掛かりました。会場の飾りつけやプレゼン、ダンスの練習、水ふうせん(ヨーヨー)の製作、白玉づくりなど、とてもハードスケジュールでしたが、派遣団の仲間たちと協力し合い、効率よく準備を進めることができました。水ふうせんの製作では、なかなかふうせんに水が入れないというハプニングが起きましたが、仲間と協力し合い工夫したことで、最終的にきれいな形に仕上げることができました。

カルチャーショー本番では、焦ってしまいダンスが少しずれてしまいましたが、皆さんとても楽しんでくれているようだったので、無事、カルチャーショーで感謝の気持ちを形として返せたかな、と思います。ピュッフェの際には、ホストファミリー以外に学校の先生や地元の方、バディたちと話すこともでき、また1ついい経験をさせていただいたな、と思います。また、白玉班が時間に追われながら作った白玉も、「Very good !!」と褒めていただけて、とても嬉しく感じました。

カルチャーショーを通し、私たち派遣団のメンバー15人のために、たくさんの方々が協力してくださったことを心から実感しました。改めて、この派遣にかかわってくださった全ての皆さんに感謝をしなければならないな、と感じました。今回の派遣に参加し、素敵なメンバー、そして素晴らしい経験をすることができて、とても嬉しく感じています。この派遣に参加できたことを無駄にしないよう、これからの生活に生かしていきたいと思います。(山岡)

今日はイギリス最後の日を飾るカルチャーショーでした。朝から夕方にかけて会場の準備からリハーサルを繰り返し行い、その度に出てくる反省点や変更点を本番直前まで修正し、シミュレーションしました。僕は司会を務めさせていただき、恐らく一番とっていいほど緊張していました。

ついに本番がやってきました。僕たちは日本のお祭りを紹介しました。初めに僕の特技のけん玉を披露し、次に浴衣を着たプレゼンター達によるモニターを使ったプレゼン、豊田市のおいでん祭りの踊りを踊りました。最後は日本の屋台を開き、ヨーヨーを楽しんでいただきました。少し段取りに手間取ってしまいましたが、内容はとても良いもので、現地の方だけでなく自分達も楽しむことができました。

カルチャーショーも終わりを迎え、賞状を頂き、この2週間の滞在を通して一人ひとり感想を伝えました。中には感極まって涙を流す人の姿もみられました。僕も正直つられて泣きそうになってしまいそうなくらい、本当にこの2週間が充実していたと心から思いました。

カルチャーショー後、全員でディナーをいただき、そこでは私たちが作ったさまざまな味の白玉団子をふるまいました。現地の方も喜んでくれたようで、とても嬉しかったです。

別れ際に、2週間僕たちと一緒に行動してくれたバディやお世話になったホストファミリーの方々と写真を撮り、お礼の言葉を交わしました。「また会おう」「日本に帰っても話そう」と言ってくれたことがなによりうれしかったです。良い最後の一日でした。
(吉坂)



3月22日(金)、3月23日(土)

北野 美緒奈

ついに最終日になってしまいました。前日のカルチャーショーで泣き腫らしたせいか、それとも朝3時に起きたせいか、目が全く開きませんでした。ホストファミリーにハグ

してさようならを言って、バスに乗り込んで、とうとうイギリスを去るのだという実感が湧きました。バディーたちからたくさんのメッセージが届いていて、またバスで泣きそうになってしまいました。

日本のみんなへの大量のお土産が入った重すぎるスーツケースを必死に運んで疲れ切っているかと思いきや、空港でまさかの爆買い。新しい財布に、水筒にと色々友達とお揃いで買いました。またお土産も追加購入。あまり時間がなかったのにも関わらず、全力ダッシュで後悔しないように買いまくりました。やっと体力が消費されたのか、ドイツのフランクフルト空港行きの飛行機に乗ったときにはもう大爆睡でした。

フランクフルト空港から日本への飛行機では、みんなで日本人の多さに驚きました。11時間ほどかけて日本に帰りました。この飛行機では映画を4本（Ocean's 8, zero gravity, Goodbye Christopher Robin, Fantastic Beast）を見て楽しんでいました。だんだん日本に帰って家族や友達に会いたくなりました。帰りに母に寿司が食べたいと頼み、寿司を食べに行きました。

今回の二週間を通して、自分の普段の生活がどれほどたくさんの人に支えられているか理解しました。また、現地でお世話になった全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。いつかまたバディーたちや仲良くなった子たちと会いたいです。（北野）



ホストファミリー紹介・派遣を終えて

(1) ホストファミリーの紹介

(2) 派遣を終えて

(1) ホストファミリーの紹介

今回私は Olga Rowe さんという一人暮らしの女性の方の家にホームステイさせていただきました。Olga さんはロシア人の方で、時折ロシア訛りの英語でゆっくりと私に話しかけてくれました。私たちが帰ってくると、必ず「今日は何があったの?」と聞いてくれて、とても嬉しかったです。そのため私はその日の楽しかった出来事を伝えました。

日曜日に私は Olga さんに手巻き寿司をふるまいました。日本食が Olga さんの口に合うか不安でしたが、「Yummy!」と言って、食べきれなかった具材を弁当箱に詰めて「明日のお弁当にもっていくね。」と嬉しそうに言ってくれました。こんなに喜んでくれるとは思わず、作った私も幸せな気持ちになりました。

帰国の前日、絵を描くのが得意な私は Olga さんに、私、私と一緒にホームステイをしていた派遣団の友達、そして Olga さんが一緒に写った似顔絵と手紙を渡しました。すると、似顔絵をみてとても驚いて「みんなそっくりね!」ととっても喜んでくれて、ハグをしてくれました。自分の好きなこと、得意なことをして喜んでもらえて、絵を描いて本当によかったと思いました。そして、似顔絵と手紙を渡した後、Olga さんから素敵なブレスレットをいただきました。私はとても嬉しくてまたハグをしてしまいました。

優しくて優雅で、料理も上手なこんな素敵な方と2週間過ごすことができ、私は幸せ者です。Olga さんのおかげでとても充実した留学になりました。



(2) 夢を叶える一歩

私はこの派遣で、自分の将来の夢を叶えるための大きな一歩にしようと思っていました。

私はみんなと違い、高専という少し変わった学校に通っています。そこで私は自分の夢を叶えるため、建築について学んでいます。そんな私の通う高専と、私たちが2週間通った BSDC は似ている点が多かったです。通っている人の年齢層の幅広さ、自由な校風、そしてさまざまなコースがある所など、たくさんの似ている点がありました。しかし、BSDC の生徒たちは、私たちよりもこの学校で何をしたいか、将来何になるのかななどのことを明確に持っている人が多いと感じました。バディや授業で出会った BSDC の生徒の人たちは、まず「日本の学校で何をやっているの？」や「将来の夢は何？」といったことを聞いてくる人が多かったです。私が「建築関係の仕事に就きたいので、学校で建築について学んでいます。」と言うと、「具体的にどんなことをやっているの？」とか「イギリスの建築物はどう思う？」と喋ってどんどん話が盛り上がっていきました。日本で同世代の人とこんなに将来の話をする経験はあまりなかったので、とても新鮮で、自分の夢に興味を持ってくれる人が多くて嬉しかったです。

他にもイギリスに来て驚くことはたくさんありました。私が一番驚いて感心したのは、イギリスの人たちは何かしてもらった時に必ず「ありがとう」と言うことです。バスから降りる時に、降りる人全員が「Thank you.」と車掌さんに一言言ってから降りていました。日本でバスを利用する人の多くは無言で電車賃を払い、降りてしまいます。私も無言で降りてしまうことが多いです。そのため私も他の人のまねをして「Thank you.」と車掌さんに伝えると、「Your welcome!」と笑顔で返してくださり、嬉しかったです。バス以外でも、さまざまな場面で気軽に「Thank you.」という言葉が飛び交っていて、日本でもまねしていきたくて思いました。また、私が学校帰りにショッピングをしている時、そのお店の店員さんに「もう閉まりますよ。」と言われ、戸惑いながら買い物を済ませて店を出ると、周りのお店も全て閉め始めていて思わず声が出てしまうほど驚きました。イギリスでの生活を振り返ると、日本のような24時間営業しているコンビニエンスストアのような便利なお店はありませんでしたし、バディはコンビニエンスストアという言葉自体知りませんでした。こんなに早く閉まってしまうのは少し不便だと感じるとともに、日本のほとんどのコンビニエンスストアが24時間営業していることも異常なのだと気づきました。この他にもたくさんの文化の違いを感じることができ、イギリスの良さはもちろん、日本の良さを再確認することもできました。

そして私はこの派遣でたくさんのイギリスの建築物をこの目で見ることができました。そもそも私が建築を学ぼうと思ったきっかけをくれた建築物は、イギリスにあるオックスフォード大学でした。オックスフォード大学の写真を見てから、西洋の建築物に関心を持ち、このような素晴らしい建築物を間近で見たい、もっと学びたいという気持ちが大きくなりました。なので、高専入学当初は将来ヨーロッパで活躍できるような建

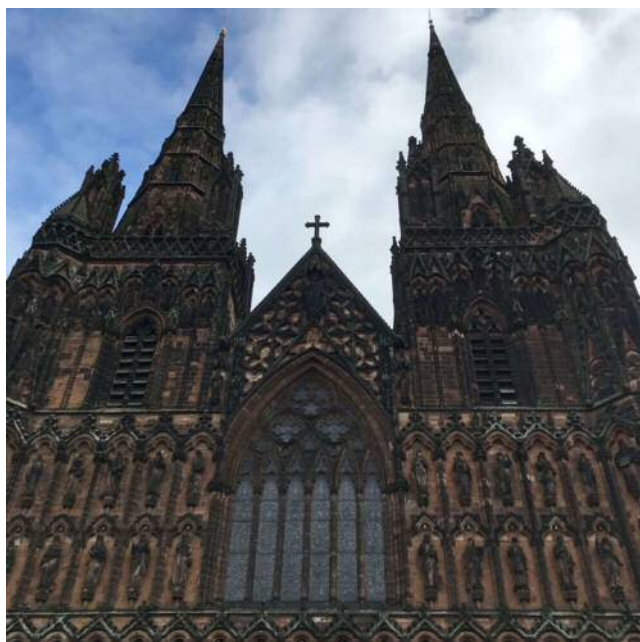
築士になることが夢でした。しかし、時が過ぎるにつれて自分の夢は無謀な夢であると気づき、この夢はなにか大きな経験を得てからではないと叶えられないと思いました。そんな私がイギリスの短期留学という大きな経験をすることができました。今回の派遣ではオックスフォード大学への訪問はできませんでしたが、リッチフィールドの大聖堂を訪問することができました。そびえ立つような大きな外観であり、その建物全体が細部まで作りこまれていて、圧巻でした。日本の建築とは全く違うたくさんの建築物を間近に見ることができて、本当に大きな経験になりました。

また、今回の派遣で課題も多く得ました。将来海外で働くと考え、英語力が足りなさすぎる、積極性が足りないことなど、あげ始めると止まりません。私はそれらの課題を見つけることができたことをプラスに考え、日本でできる範囲で課題の改善をしていきたいです。

この派遣で何を得たいか、何を目的とするかは15人それぞれ違ったと思います。この派遣を通じて、そんな高校も違う14人の仲間たちの思いを少しでも知られたこと、こんなにも仲良くなれたことは、私の人生において大きな財産となりました。

他にも引率して下さった先生、2週間学校での補佐をしてくれたバディたち、BSDCの先生方、私たちを受け入れてくれたホストファミリーの方々、そしてこのような素晴らしい派遣事業を行ってくださった豊田市の方々には、感謝しかありません。私はこの経験を決して無駄にせず、自分の将来の夢への大きな一歩にしていきたいです。





2 豊田西高等学校

桐原 万由

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは、ホストマザーの Becki と 11 歳の男の子 Johnny でした。Becki は、BSDC の職員でもあり、校内で会うとジョークを言って笑わせてくれるような、ユーモラスで優しく、あたたかい方でした。私の行動 1 つ 1 つに笑ってくれたり、英語の課題を一緒に考えてくれたり、話していて笑顔が絶えませんでした。また、好きなバンドの話をして曲を紹介し合い、私がドラムを演奏していることを知って、イギリスで有名なドラマーの動画を見せてくれるなど、フレンドリーなホストマザーに、緊張気味だった私は何度も助けられました。イギリスの天気から時事問題、学校教育や働き方の違いなど、様々な話をして、沢山のことを教えてくれました。Johnny は日本のアニメが大好きで、特にポケモンが大好きなので部屋にはポケモンのグッズがたくさんありました。いつも部屋でゲームをしているのですが、日曜日には部屋と一緒に、日本のおもちゃで、コマをぶつけ合って戦う、ベイブレードをして遊びました。私自身も従兄弟とプレーしたことがあり、まさか海外でも有名とは思っていませんでしたので、とても衝撃でした。こ



の親子はとても仲が良く、お互いを思いやっているのだなと感じました。Johnny が Becki を遊びで挑発するような素振りを見せると、キッチンにあった木のスプーンでチャンバラごっこを始めるなど、見ていて笑いが絶えませんでした。とても心優しいホストファミリーと過ごすことができ、とても幸せな時間でした。

(2) 宝物の2週間

私は、この派遣を通して、言語の壁は多少あっても心で通じ合うことはできるのだなと強く感じました。初対面の人、更には違う言語を話す人々に声をかけることは自分にとって今回の目標でもありました。そう決めたまっかけは、一昨年の夏にガールスカウトのプログラムに参加するためにイギリスを訪れた時でした。その時は、話しかけるどころか尋ねたいことを英語で表現することも出来ず、会話に加われず悔しい思いをしました。だから、それから培った英語力を試す意味でも今回の派遣に参加を希望しました。

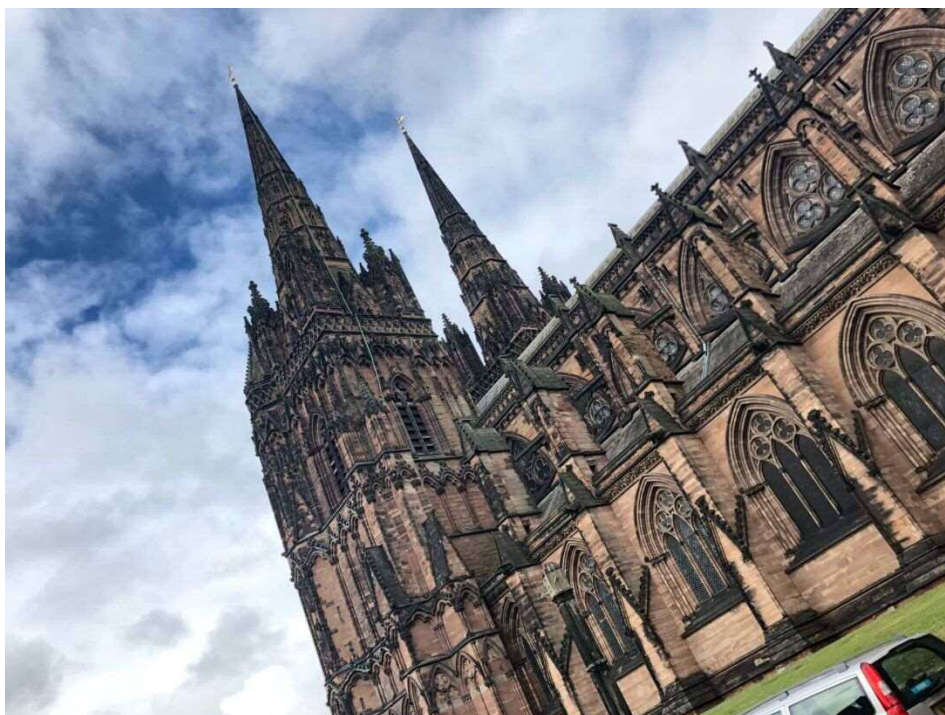
期間中、沢山の方とお話しすることができましたが、どの方も顔きながら、私の拙い英語を聞きとってくれ、とてもうれしかったです。例えば、初めての下校で、バス停の位置がわからず迷子になった時、私は「I want to go back there!」の他に単語しか言えなかったのに運転手さんは「Are you BSDC's student?」「Tell me if we're close to your house.」と言って親切に家の近くまで乗せてくれたり、翌日にまたバスに乗り込むと「Hi-ya!」と挨拶してくれたりしました。英語をあまり話せない私に対しても、現地の人とほとんど態度を変えず接してくれたやさしさに涙が出そうなほど感動しました。バディーたちは、私が「It's cold!」と言うと「寒いね～」と日本語で返してくれたり、「お寿司のバッジがかわいいね」と私が言うと、「何の種類が好きなの?」と質問してくれたり、会話を切らずに続けてくれることはきっと難しいことだと思うのに、笑顔で話してくれて、自分もそういう状況になった時に同じようにできるといいなと感じました。

ホームステイでは、ホストファミリーの生活にどこまで入り込んで良いのかをずっと悩んでいました。11歳のホストブラザー (Johnny) とは、初め何を話したら良いのか分からず、1週間くらいは朝に「Morning.」とあいさつするくらいで、距離を縮めるためにどうしたらよいか悩み、その期間が少しつらかったです。話しかけても上手く返事ができなくて、歯がゆかったです。それでも日曜日に、日本のお菓子をあげたことをきっかけに部屋に連れて行ってもらい、Johnny が持っていた日本のおもちゃと一緒に遊ぶことができました。それからは、Johnny がマザーにいたずらをしようとしている時に目配せして笑ったり、宿題を手伝わせてもらったりと、少し Johnny との壁が崩れた感じがしてほっとし、同時にうれしく思いました。今思うと、少し消極的になりすぎたのかなと反省しています。ホストマザー (Becki) とは、今回の派遣の中で1番様々なことを話せたと思います。現地に着いて、家までの車の中では緊張していましたが、わたしのことについてたくさん尋ねてくれたり、「Your English is good!」と褒めてく

れたりして、約2週間の自信につながりました。また、家では、「This is your house, so help yourself.」

と何度も言ってくれ、家族の一員として見てくれているのだなと感じ、心が温かくなりました。毎日夕食の時に今日あったことや日本のことを話し、こんなに短い期間でも本当の親子みたいに過ごせたことにありがたさを感じていました。カルチャーショーの後には、もうこのメンバーがいるこの景色を2度と見ることはないのかなと思うと悲しくなってしまう、涙が出てきてしまいました。その時、バディーや Becki、この派遣を担当してくれた BSDC の Stephanie が「Don't cry.」「No tears.」と優しく励ましてくれて、言葉はなくても、自分の気持ちはしっかりと周りのみんなに届いていたのだなと感じることができました。この時で最後、という実感はあまりありませんでしたが、この場所がいかに自分の中で大きな存在になっていたのかを思い知らされました。今、思い出してみると、このような素敵な方々との出会いに彩られた、2度と経験できない派遣だったなとしみじみ思います。

また、様々な場所を訪れたことも良い経験になりました。トヨタの工場見学では、環境への取り組みや若者の育成に力を入れていることに感心しました。日本からは遠く離れているけれど、「行灯」のシステムは日本の工場と同じで、つながりも感じました。リッチフィールドの大聖堂では、昔の職人さんの技術で1つ1つの彫刻などが作られていて、それが今まで残っていることの壮大さに圧倒されました。



2度と経験できないような出会いに恵まれた2週間でした。今でも夢だったんじゃないかと思うほど、長いようで短く、充実した日々を過ごすことができました。この経験は、自分の人生においてとてもプラスになると心の底から実感しました。ここで学んだ

ことを生かし、日本とイギリスを繋ぐことができるような人材になりたいなと思うようになりました。今回、この派遣に参加できて本当に良かったです。



3 豊田東高等学校

濱井 理沙

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストマザーの名前は Olga Rowe さんです。1人暮らしのロシア人で15年前からイギリスで暮らしています。私は英語が苦手だと会う前からメールで伝えていたため、初日からゆっくり英語を話してくれたり、1つ1つの単語を区切って話したりしてくれました。英語だけの生活に不安だった私は少しだけほっとしました。そんなホストマザーとの1日は朝の「Girs,good morning!」から始まります。ホストマザーは仕事に出かけるため、朝の6時30分に家を出発します。そのときに廊下から声を掛けられて1日が始まります。学校から帰るとホストマザーも仕事から帰ってきて、一緒にディナーを食べます。ホストマザーとゆっくり話せるのはディナーのときぐらいでした。ホストマザーは仕事で疲れていても私たちと会話をしてくれました。初日の方は緊張して会話があまり続きませんでした。一緒に映画を見たり色々な話をする度に段々と緊張がほぐれていきました。ホストマザーはよくディナーの後に「A cup of tea?」と聞いてきます。ディナーの後は紅茶や緑茶を飲んで毎日ティータイムをしました。そしてティータイムのときにその日あったことやショッピングの話をしました。そんな時間も2週間経つとあっという間だったと実感します。それにホストマザーの料理は美味しかったです。私はいつもディナーが楽しみでした。話せる時間が短いからこそディナーとティータイムの時間は貴重な時間になったと思います。ホストマザーのおかげで毎日楽し

く過ごせました。



(2) ～ダービーシャー派遣で感じたこと～

私はダービーシャーに派遣されて感じたことがいくつかあります。1番感じたことはイギリスには優しい人が多かったことです。リッチフィールドに行ったとき、BSDCの先生のAnnさんがホームレスの方に食べ物を渡していたのを見て感動してしまいました。日本ではあまり見られない光景だったのでとても嬉しくなりました。またAnnさんだけでなく、通りすがりの町の人々も声をかけたりしていてイギリスの方の優しさに触れた瞬間でした。日本では声をかける人を見たことがありませんでしたが、イギリスでは声をかける人がいることに驚きました。それだけではなく、買い物のときにレジの使い方が分からなかったときも店員さんが笑顔で教えてくださいました。また「Thank you!」と言ってくれる回数も多かったです。私もそんなイギリス人の優しさを見習いたいと思いました。



次に、自分の英語力の乏しさです。私は特にリスニングが苦手で、初日は空港でも外国人が何を言っているのかさっぱり分かりませんでした。ホストマザーはゆっくり話してくれたのでとても分かりやすかったのですが、BSDCでは話す速度がとても速くて、何を言っているのか分かりませんでした。でも日が経つにつれ慣れてくると聞き取れるようになりました。今もまだリスニングは苦手ですが、イギリスに来る前よりは聞き取れるようになった気がします。

次に、イギリスの文化と日本の文化の違いに驚きました。朝バスに乗ろうとバス停で待っていると、なかなか時間通りにバスは来ませんでした。バスに乗っても驚きの連続

です。まず路上駐車している車が多く、バスはそんな車と車の間を縫うように進んできました。そのためバスに乗っていると揺れることも多いので、私はイギリスに来てからたった数分のバスでも酔いやすくなってしまいました。日本ではあまりバス酔いはなかったのが驚きました。

次に、日本では当たり前だったことがイギリスでは当たり前ではないことです。日本で飲食店に行くとお手拭きが出てくるのが一般的ですが、イギリスでは注文しないと水は出てきません。お手拭きはイギリスではあまり見かけませんでした。その上、ご飯を食べる前に手を洗うこともイギリスではあまりないように感じました。私がホームステイした家は日本と同じように玄関近くで靴を脱ぐことが決まりでした。その点は日本と同じ感覚が味わえました。シャワーのときはもちろん湯船はありません。2週間ずっとシャワーだけだったので湯船が恋しかったです。またバスタオルも1週間同じものを使っていたので、イギリスでは毎日バスタオルを変える訳ではないのだと学びました。最初は信じられませんでした。日本でいかに贅沢な暮らしをしていたのかと気がつきました。日本では当たり前だったことがイギリスでは当たり前ではなかったのです。そこで日本の良いところにも気づけました。土曜日にはロンドンに行きました。小学生の頃から行きたかった大英博物館に行けて嬉しかったです。絵画や作品が大好きな私にとっては夢が叶った瞬間でした。今回はゆっくり見られなかったので、また1度は訪れてみたいです。ロンドンでの交通手段は電車を使いました。日本の電車よりも天井が低かったです。日曜日はホストマザーとバーミンガムのショッピングセンターに行きました。日本でいう松坂屋や高島屋みたいな所でした。ショッピングセンターに行くと子供連れの親子がたくさんいるのが目につきました。日本よりもイギリスでは子供をよく見かけたので、日本で少子化が進行していることを実感しました。

ホストマザーはロシア人なので英語の勉強が難しいことを理解してくれました。ホストマザーは映画「マンマ・ミーア！」を見て英語の勉強をしたそうです。私達もディナーの後はティータイムで紅茶を飲みながら、全て英語が言語の映画を見ました。字幕がなくても役者の表情や演技などで話の内容は理解できました。今までは吹き替えで洋画を見ていたので、これからは字幕なしでも見てみたいと思いました。思っていたより聞き取れる英語も少しだけあり、何事もやってみることで案外できることもあるのだと気がつきました。嬉しかったこともありました。帰りのフランクフルト空港の税関で日本が大好きな人に会いました。「日本人は素晴らしい！」とってください、海外では日本人を良く思っている人がいて、とても誇らしかったです。また英語を話すことに関しては思っていたよりも通じていて、驚いたと同時に嬉しかったです。私は今回の派遣でさまざまなことを学び、さまざまな自分を見つけることができました。そしてイギリスに来る前よりは英語が少しだけできるようになった気がします。それも今回得たものです。これからももっと英語を勉強して、新しい自分で再びイギリスを訪れたいです。



4 衣台高等学校

宮崎 里濃

(1) ホストファミリーの紹介

今回私は、Kinnard 家にお世話になりました。現在は、お父さんの Andrew、お母さんの Claire、娘夫婦と、犬の Enya と Lily の 2 匹で暮らしていますが、他にも子供が 7 人、孫が 10 人いる大家族です。そして、私たちの他にも韓国やカナダなど様々な国からホームステイを受け入れている家庭でした。

初日に部屋に入ったとき、ベッドの隣のチェストにお菓子と「我が家によろこそ」と日本語で書いてある紙が置いてあり、とても温かい気持ちになりました。Andy と Claire は毎朝「おはよう」と挨拶をしてくれたり、美味しい食事を作ってくれました。Andy は初めて BSDC に行くとき迷わないようにについて来てくれたり、ショッピングに連れて行ってくれたり、ジョークを言って笑わせたりしてくれました。Claire とは一緒にマーマレードジャムやケーキを作ったり、Enya と Lily の散歩に行ったりしました。それぞれのホストファミリーと行動する日には、「オックスフォードに行きたい」と言ったら車で 2 時間もかかるのにつれて行ってきて、ハリーポッターのモデルとなったオックスフォード大学のダイニングホールや、アリスショップ、博物館に行ったり、2 階建てのバスに乗ったりと Andy と Claireのおかげで日本ではできないような経験をたくさんすることが出来ました。

日本と違うことが多くて戸惑うこともあったけど、Kinnard 家の方たちがとても親切で優しく、本当の家族のように接してくれたおかげで、充実した 2 週間を過ごすことが出来ました。



(2) 派遣を終えて

私にとって今回の派遣は初めての事と驚きだらけでした。初めてのフライト、初めての海外、初めてのホームステイ、期待と不安で胸がいっぱいでした。約13時間のフライト中、イギリスに近づくにつれて自分の英語はちゃんと通じるだろうか、ホストファミリーやバディと仲良くなれるだろうか、と到着する前からガチガチに緊張していたのを覚えています。イギリスに到着すると、日本とは全く違うレンガ造りの街並みとホストファミリーが待っていました。初めて会うホストファミリーが笑顔で優しく話しかけてくれて、それまでの不安が一気に吹き飛びました。BSDCに登校してバディと会った時も、「日本の学校では何を勉強してるの？」などとバディ達の方から話しかけてくれて、日本とは違って現地の方から積極的に声をかけてくれたのがとても嬉しかったです。

今回、経験した事の中で特に印象に残っているものが3つあります。

1つ目はアフタヌーンティです。初めてのアフタヌーンティでは、自分たちで作ったスイーツとサンドイッチを食べました。どれも美味しくて、お腹がいっぱいになるまで食べてしまいました。リッチフィールドでもアフタヌーンティを体験したのですが、種類も量も多すぎて食べきれないほどでした。



中でもスコッチエッグとスコーンがとても美味しかったです。それに、お店自体もおしゃれで、優雅なひと時を過ごしました。

2つ目はロンドンの視察です。地下鉄を使って、大英博物館とApple Marketとビッグ・ベンとバッキンガム宮殿に行きました。ロンドンの地下鉄は改札機が閉まるのが非常に早く、改札機のカも強かったので一度押し戻されてしまい、パニックになりかけました。大英博物館ではロゼッタストーンやモアイ像を見ました。教科書に乗っていたものを実際に見ることができました。Apple Marketでは、たくさん買い物をしました。お昼ご飯に牛ひき肉と玉ねぎのミートパイを食べたり、ホットチョコレートのミント味を飲んだり、Hotel chocolateというお店でブラウニーを9個くらい買ったなら、店員さんに「あなた変わってるわね」と言われたりしました。ビッグ・ベンは、残念ながらバルを直している所だったようで文字盤以外全て黒い布で覆われた状態しか見ることはできませんでしたが、それはそれでなかなか見られないものが見られたような気がしました。ロンドン・アイもあって、乗ってみたかったのですが時間が無くて乗れませんでした。バッキンガム宮殿は、建物自体がとても綺麗で写真を撮るたくさん撮りました。しかし、風が強すぎて自分たちが映っている写真は全て髪の毛がボサボサになっていました。

中に入ることはできなかったのですが、旗が上がっていたのでエリザベス女王が中にいたようです。ビッグ・ベンをしっかりと見られなかったことと、ハロッズに行けなかったのは残念でしたが、初めてのロンドンを見たことがないものばかりでとても楽しかったです。



3つ目はホストファミリーと行ったオックスフォードです。オックスフォードまでは車で2時間もかかるのに、ホストファザーとホストマザーがつれて行ってくれました。博物館に行って彫刻を見たり、ショッピングをしたり、オックスフォード大学のダイニングホールを見に行ったりしました。オックスフォード大学のダイニングホールはハリーポッターのモデルになった場所で、私たちの他にも観光客がたくさんいました。日本人の方もいて、マンチェスターでホームステイをしているらしく、ホストファミリーと少し喧嘩をしたと言っていました。「不思議の国のアリス」の作者であるルイス・キャロルがオックスフォード大学の数学の教授だったので、大学の近くにはアリスショップがありました。アリスショップは店内のグッズのほとんどがオックスフォード限定のものばかりでデザインのカワイイものが多く、たくさんお土産を買ってしまいました。他にも、タピオカドリンクのお店に行ったり、Covered Marketに行ったりしました。タピオカドリンクのお店では、GMP というシンプルなミルクティーのものを飲んだのですが、日本のタピオカよりもモチモチしていて、まるでお餅のようでした。ホストファミリーのおかげで最高に充実した1日を過ごすことが出来ました。



今回の派遣で、自分の英語の未熟さ、勉強の足りなさを知り、自分とは違う環境で勉強している人たちに出会って、もっと頑張るって英語を勉強したいと思いました。2週間、楽しいことばかりではなく、大変だったことやつらいと思ったこともありましたが、またイギリスに行きたいと思えるのは、一緒に行った14人の仲間とお互いに支え合い、協力し合えたからだと思います。全員が違う高校で不安もあったけど、この15人のメンバーでイギリスに行けて本当によかったです。

こんな貴重な経験をさせて頂き、今回の派遣に関わった全ての方に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、イギリスで学んだ日本とは異なる文化や現地での経験を日本で周りの人に伝え

ると同時に、今後の生活に生かしていきたいと思います。

5 猿投農林高等学校

大中 実季

(1) ホストファミリーの紹介

私は今回の派遣で Fitzpatrick 家にお世話になりました。家族構成は父の Paul、母の Fay、養子の 10 歳の Rauren、8 歳の Riley の 4 人家族にチワワの Charlie もいました。Paul はたくさんジョークを言ったり、ドライブでお気に入りの曲がかかるといつもノリノリになったりと、とても面白いファザーでした。Fay はもともとシェフとして働いていたということもあり、毎日おいしいご飯を私に作ってくれました。「今日は何が食べたい？何でも作るわよ。」と言って、私のリクエストする料理を毎日ディナーとして出してくれる優しいマザーでした。ホストシスターの Rauren は私よりも年下なのにとてもしっかり者で、私が困っているときには彼女が必ず助けてくれました。彼女はとてもおしゃれに敏感で、買い物へ一緒に行くと、「これ似合うと思う！」などのアドバイスを言ってきたりと、本当に可愛らしかったです。ホストブラザーの Riley はとってもおしゃべりで、いつも私に色々な話をしてくれたり、変な顔をして私をたくさん笑わせてくれました。彼はスナップチャットというアプリがお気に入り、毎日たくさんの面白い動画を私の携帯で撮って楽しんでいました。それらの動画は今でも私の宝物です。こんなにもステキなホストファミリーと一緒に 2 週間過ごすことができ毎日が幸せでした。Fitzpatrick 家は私の大好きな第二の家族です。心から感謝します。



(2) I love U.k.

初めてホストファミリーと対面したときのドキドキ感は今でも忘れられません。自分から積極的に話そうと思っていたものの、初日はほとんど Yes か No としか喋ることができませんでした。初日の悔しさをばねに 2 日目以降は「自分から動かなきゃ」というコミュニケーションに対する強い意志が生まれてきました。思うように話せないとき、悩んでいるときには必ず私のそばにいるバディーやホストファミリーが手を差し伸べてくれました。そしていつも私に「自信を持って！」などと温かい言葉をかけてくれ

ました。彼らのおかげで私は自分の英語力に自信が持てるようになりました。少し余裕が生まれてくると、ショッピングをしているときに店員さんと話せるようになったり、初対面の人と共通の話題で盛り上がるのができたりと、より充実した日々を過ごすことができました。

2週間毎日楽しむことができたのは、BSDCのバディーやホストファミリーだけでなく、派遣団の仲間のおかげでもあると感じています。自分より英語が話せる子は私にとって良い刺激となりました。また、困っているときにはいつもお互いに助け合ったりと、私にとって必要不可欠な存在でした。放課後にカフェやショッピングへ一緒に行ったり、話が尽きなかったランチタイム、まだまだ他にもありますが、みんなと過ごせて楽しかったですし、出会えることが出来て、本当に嬉しく思います。

BSDCでのキャンパスライフは私にとってとても新鮮なものでした。ブレイクタイムは日本の高校より5分長い15分間でした。その15分の間生徒たちは全員教室から出て、廊下に座り込んでお菓子を食べたり、音楽を流したり、UNOで遊んだりと、それぞれ自由にリフレッシュしていました。ただ自由なだけでなく、次の授業へしっかりと気持ちを切り替えられる、良いシステムだなと感じました。また、BSDCの生徒たちは全員と言ってもいいほどみんな親切にしてくれました。特に男の子は特別に優しくしてくれました。ドアを当たり前のように先に開けて押さえてくれたり、私が寒がっているとパーカーや手袋を貸してくれたり、本当に気の利いた男の子ばかりでした。「英国紳士」という言葉に間違いはありませんでした。

私が1番感謝を伝えたいのはホストファミリーです。Fitzpatrick家は本当に素敵で温かい家族でした。父Paulはショッピングが苦手と聞いていましたが、日曜にはチェスターのアウトレットへ連れて行ってくれました。店員さんに他のサイズがないか聞いてくれたり、財布を私にプレゼントしてくれたり、見た目は少し怖いファザーでしたがとても親切な方でした。また、ドライブ中に流れている音楽を聴きながらノリノリな姿はとっても面白かったです。母Fayは毎日美味しい料理を作ってくれました。イギリスの料理はまずいと聞いていた上に、私は好き嫌いが多くてとても不安でした。でも彼女は毎日「何が食べたい？何でも作るわよ！」と私が食べたいものをディナーに出してくれました。私も料理が得意だったので、日本食の肉じゃが、味噌汁などを一緒に作ったのも良い思い出です。彼女はまるで本当の母のように心の広い方でした。ホストシスターのRaurenは本当に可愛い女の子でした。私が毎日学校から帰るとネイルやメイクをしてくれました。また、彼女とお揃いのストラップやブレスレットを私にプレゼントしてくれました。私がそれらを身につけていると彼女はいつも大喜びしてくれました。プレゼントは一生の宝物です。私が困っているときにそばにいてくれる、妹のような存在でした。ホストブラザーのRileyはとってもおしゃべりで、マザーにいつも「Be quiet!」と注意されているほどでした。彼は毎日私に色々な話をしてくれました。また、彼は折り紙がお気に入り、私が教えなくても説明の本を見て遊んでいて驚きました。

Riley といったらスナップチャットというアプリを思い出します。スナップチャットは面白い動画が撮れるアプリで、彼は毎日動画をいっぱい撮っていました。それらの動画は日本に帰ってきた今でも何回も見てしまうほど面白くて、お茶目なホストブラザーでした。

イギリスで過ごした2週間、本当に色々なことがありました。でもたくさんの人が私をサポートしてくれたおかげで、楽しく充実した日々を送ることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。私の1番の思い出は、この派遣に関わる人々に出会えたことです。彼ら無しではこんなに素晴らしい時間を過ごせていなかったと思います。みんなと別れる最終日は本当に本当に悲しかったです。涙が止まらなくてご飯を全然食べることができませんでした。そのくらいホストファミリー、バディー、派遣団のみんなのことが大好きでした。今でもみんなのことを考えると寂しく恋しい気持ちでいっぱいです。この2週間の思い出は絶対に忘れません。そして、またイギリスでホストファミリーやバディーと再会したいです。



(1) ホストファミリーの紹介

僕は今回のホームステイで Simpson 家にお世話になりました。ホストマザーの Liz さんとホストファザーの Chaim さん、息子の James さん、2 匹の可愛い猫と 2 週間過ごしました。初日の夜に日本から持ってきたお菓子などのお土産を渡すと、抹茶味のキットカットやポッキーをととても気に入ってくれて、美味しいと言って食べてくれました。ホストマザーの Liz さんは、料理が好きでとても上手でした。イギリスに行くにあたって、家族や周りの友人は「日本と食文化が違うからイギリスの料理はあまり美味しくない」と言っていたのですが、全くそんなことはなく、用意してくださった料理はどれも美味しかったです。毎日、飽きないようにと、色々なカテゴリーのご飯を作ってくれました。また、英語に慣れていない僕らに対して「今日はカレッジで何をするの?」「1 日どうだった?」など積極的に会話を切り出してくれたので、とても話やすく嬉しかったです。

ディナーの後はトランプをやったり、家族みんな音楽が好きだったため沢山外国のいい曲を教えてくれたりして、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

ホストファミリーがとても優しく接しやすい方だった為、緊張と不安でいっぱいだったイギリスの生活がとても楽しいものとなりました。また、イギリスに行くことがあれば会いに行きたいです。



(2) 派遣を終えて

今回のイギリスは、私にとって初めての海外でした。初めての海外だったため、わくわくよりも不安や緊張のほうが大きかったです。なぜなら、自分の英語力で現地の方々と上手くコミュニケーションがとれるか心配だったからです。しかし、最終日は日本に帰りたくなく、このままイギリスで過ごしていたいという気持ちのほうが強かったです。

まずは、イギリスで驚いたことについてお話します。1つは、食事についてです。世間一般的にイギリスの食事は、あまりおいしくないと言われていています。私も、イギリスに行く前まではそのような偏見を持っていました。しかし、それは、嘘でした。僕が今回食べた料理で「これはちょっと…」と思った料理はひとつもありませんでした。むしろ、とてもおいしかったです。食事のマナーについても日本とは少し違いました。フォークとナイフを使って食べる料理が出た際、日本ではフォークとナイフを片方に寄せて“食べ終わりました”という意味ですが、イギリスでは、皿の中央に重ねるのが食べ終わりの合図だということホストマザーに教えてもらいました。2つ目は、イギリス人の礼儀と優しさです。僕は、派遣中ずっとバスに乗って学校に通っていたのですが、バスを降りる際、ほとんどの人が、運転手の方に「Thank you」と言ってから降りていました。また、信号機のない横断歩道で待っていても日本だと止まってくれる車が少ないのですが、イギリスは、ほとんどの車が歩行者優先で渡らせてくれました。他にも、学校帰りによく買い物に行ったのですが、その際にお金の出し方が分からなかった私に対して、どの店員さんも優しく丁寧に教えてくれました。日本人も優しい方がたくさんいますが、イギリスも負けないぐらいいるということがわかりました。

この研修の中で一番の思い出は、バディや BSDC の生徒さんとの交流です。初めてバディと会ったときは、緊張してしまって全く喋ることが出来ませんでした。

最初に喋りかけてくれたのは、ハナでした。学校の ID カードを発行する時に喋っていなかったら、こんなにも仲良くなっていなかったかもしれません。ハナは、とても日本語が上手で、英語が下手な僕の言葉も理解してくれる人でした。今回バディとして4人が私たちと一緒に活動に参加してくれましたが、パトリック、ジェイコブ、シーナ、そしてハナはとても優しくしてくれて、今でも連絡を取り合う友達です。ほかにも、アフターヌーンティーやクリエイティブ・メディア・ワークショップと一緒にペアを組んだ BSDC の生徒さんとも SNS の連絡先を交換をすることができ、イギリスの友達をたくさん作ることが出来ました。今回の派遣の中で、外国の人とうまく喋るのに必要なものはコミュニケーションをとろうとする気持ちだということがわかりました。もちろん、ある程度の英語が喋ることが出来なければ会話は成立しません。しかし、完璧な英語でなくても、伝えようという意思が伝われば、わかってくれました。私はイギリスに来て間もない時、自分の思うように言いたいことが相手に通じませんでした。なぜなのか一晩考え、次の日から喋るときに、何とか伝えるために身振り手振りを使うようにしました。すると、自然とホストファミリーやバディみんなが自分の言いたいことを分かって

くれることが多くなりました。自分が思っていることを伝えることが出来たときはとてもうれしかったです。これは、世界共通であると思います。これから、どんな時でも伝えようとする意志をしっかりとって会話していきたいです。

派遣を終えて、英語に関する知識だけでなく、コミュニケーション能力や何事にも挑戦する力など、さまざまな力がついたと思います。今度、イギリスを訪れる際はもっと自分の英語力を上げ、仲間と再会したいです。このイギリスで過ごした時間は、とても濃いものだったことは間違いありません。一生忘れることのない思い出を作ることが出来ました。今回、ダービーシャー海外研修という素晴らしい機会をいただき、関わってくださった両親をはじめ、全ての人達に感謝しています。そして、今回の派遣を無駄にすることなく人生の進路の材料とし、将来に役立てていきたいです。最高の経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



(1) ホストファミリーの紹介

今回、私は Anne Brookes 家にホームステイさせて頂きました。

ホストマザーの Anne さんと旦那さんの Martin さん、そして2匹の猫ちゃんと過ごしました。旦那さんの Martin さんはお仕事の都合で週末しか会うことができなかったのですが、ほとんどの日を Anne さんと猫ちゃんと一緒に生活しました。

Anne さんは料理がすごく上手で、毎日美味しいご飯を作ってくれました。特に私が一番好きだった料理がフィッシュアンドチップスです。イギリスに行ったら絶対に食べたい! と思っていたので、作ってくれた時はすごく嬉しかったです。Anne さんが持っている料理本を見せてもらったり、一緒に料理番組を見たりもしました。ガーデニングも好きらしく、大きな庭でお花や植物をたくさん育てていました。私が日本からのお土産でガーデニング用の手袋をあげたら喜んでもらえました。

初日は戸惑って何も会話できていなかったのですが、次の日に勇気を出して自分から話かけました。自分の家族のことや学校のことなどを、つたない英語でなんとか話しました。Anne さんはそれをちゃんと聞いてくれて、私が間違っている文法を指摘して教えてくれたりしました。英語でコミュニケーションを取るのは難しかったけど、すごく勉強になりました。

旦那さんの Martin さんもすごく優しい人で、休日にお出かけに連れて行ってくれました。私たちの買い物にも付き合ってくれて嬉しかったです。初めてのホームステイが Anne さんの家で本当によかったです。



(2) 派遣を終えて

～大切な思い出と時間～

今回、私はこの第5回ダービーシャー高校生派遣で多くの貴重な体験をすることが出来ました。初めての地でいろんな事に挑戦して、たくさん吸収したいと思い、この2週間を過ごしました。

イギリスに着いて2日目、BSDCに行きました。バディーと初対面したときはすごく緊張していたのを覚えています。“頑張って話しかけなきゃ”と想着いても、英語で何と言ったらいいのかわからず、何も会話できませんでした。自分の英語力とコミュニケーション力の無さに情けない気持ちになり、初日にしてホームシックになりました。だけど“まだ初日、これから、これから！”と気持ちを切り替え、やる気を出しました。3日目は英語講座でした。この日が私にとって一番の山場だと思って挑みました。私はディベートが苦手で、上手くやれるかすごく不安でした。それに先生が話している内容を聞き取るのに精一杯でした。だけどバディーや同じグループの子達が協力してくれて、なんとかやりきることが出来ました。自分の意見を話すとき、より分かりやすいようにジェスチャーを使ったりしました。相手に話が通じた時はすごく嬉しかったです。

4日目はスポーツレクリエーションを行いました。私が一番楽しかったのはラグビーです。相手にタグを取られないように逃げて、トライできた時の達成感はずっと気持ちが良かったです。2019年に豊田市でラグビーワールドカップが行われることもあり、ラグビーへの関心が高まりました。

5日目はアフタヌーンティー体験をしました。フォークやスプーンの置き場所や3段ケーキスタンドの食べ方など、さまざまなことを学びました。BSDCでウェイターを学んでいるペアの人が準備を一緒にしているとき、「ぼくより上手だね」と褒めてくれました。アフタヌーンティー文化を本場イギリスで体験できたことはとても貴重でした。



6日目は英国トヨタ自動車を訪問しました。トヨタ車がイギリスでも作られていて、それに世界中の人たちが乗っているということを知りました。そのような企業が自分の住んでいる豊田市にあることを、市民として嬉しく思いました。



7日目、ロンドン視察に行きました。大英博物館やビッグ・ベン、バッキンガム宮殿などを見学しました。私の感じたロンドンは、大都市で人々が自由に生活しているようでした。

8日目はホストファミリーと過ごしました。ダービーシャーの美術館に連れて行って

くれて、教科書に載っていきそうな絵画がたくさん飾ってありました。日本にはない西洋独自の文化を身をもって感じることができました。

9日目はこども博物館とサドバリーホールを視察しました。様々なおもちゃが展示しており、それぞれの時代の歴史を知ることが出来ました。

10日目はリッチフィールドに行き、古い町並みや大聖堂を見ました。私が一番印象に残っているのは大聖堂の中にある大きなステンドグラスです。たくさんのステンドグラスが太陽の光でキラキラと輝いているのを見たとき、胸がときめきました。あの光景は決して忘れられません。



11日目、クリエイティブ・メディア・ワークショップを行いました。

午前中はB S D Cの学生とフォトグラフを撮りました。小道具を使い自由にポーズをとったり、本格的な撮影スタジオでモデルさんのように撮影したりしました。



私が特に印象に残っているのはアナログなカメラでの撮影です。暗室で撮影した写真を現像する様子を見たときに、現代では携帯やデジカメで写真を撮ることがほとんどなのに、あえてアナログな方法でやることに意味があるという事に共感しました。私は1年くらい前から写真を撮ることに興味があり、フィルムカメラや撮影技法について学びたいと思っていました。なので、今回たくさんのカメラや機材を使った授業はすごく興味深く、感心したし、日本に帰ってからでも挑戦したいと思いました。素晴らしい体験をすることができたことに心から感謝したいです。

最終日の12日目はカルチャーショーを行いました。

リハーサルではみんなで見えを出し合って発表の仕方を改善したり、本番直前まで原稿を読む練習をしました。カルチャーショー本番はお客さんみんなが楽しんでくれていた姿を見られてすごく嬉しかったです。発表が終わると、これまでの思い出がどんどん蘇ってきて涙がこぼれました。すごく心に残る大切な1日になりました。

この2週間は私を大きく成長させてくれた大切な時間になりました。以前は、自分の英語に自信がなく、間違える事を恥ずかしく思っていました。しかし、間違えることを恐れる事が一番、英語力が上達できない事だとわかりました。間違っていてもどんどん話しかけることで英語を学んでいくことができたので、自分の殻を破ることができた重要な期間だったと改めて実感しました。日常会話程度のコミュニケーションを取るには自分の英語力はまだ全然足りないから、もっと会話したいと思う気持ちを行動に起こせるようにしていきたいです。

最後に、この派遣で貴重な経験をすることができ、たくさんの優しい人と出会い、自分のこれからの人生にとって大切なことを多く学ぶことができました。そして将来の夢を見つけるきっかけにもなりました。本当に充実した日々で、一生忘れません。素敵なメンバー、先生方、ホストファミリー、バディーに出会えたこと、すべてに心から感謝します。

8 加茂丘高等学校

廣瀧 花乃

(1) ホストファミリーの紹介

私が2週間お世話になったホストファミリーはElaineさんです。今は家に1人で暮らしている女性の方でした。初めて対面した時から優しく名前を呼んでくれて緊張が少しだけなくなりました。朝食は基本は自分たちで用意をして食べましたが、夕食はおいしい食事を用意してくれました。ほとんど毎日仕事で忙しく、朝私たちが起きた時には仕事に出かけていることもありました。仕事で疲れて帰って来ててもすぐに食事を用意してくれました。以前にも、たくさんホームステイを受け入れている方で、私たちへの接し方もとても慣れていました。ダイニングテーブルの上には、私たちがその日したことなどを書き込むノートが置いてありました。その他にもダイニングには今まで受け入れてきた生徒の写真がたくさん飾ってありました。最終日には私たちの写真も加わってい

ました。洗濯は毎日する方ではなかったので、一緒にホームステイをした子と2人で洗濯をしていました。ホストマザーは歌番組を見ることと、友達と電話をすることが好きで、私たちがいる時も電話をしている姿をよく見かけました。友達がとても多い方だなと思いました。しかし、私たちにはとても親切にしてくれるとても良い方でした。



(2) 一生に一度のホームステイ

私にとってこの派遣は初めての海外であり、初めてのホームステイでした。日常生活をする中で日本語が通じないことも、何もかもが新鮮でした。イギリスに着いてすぐにホストファミリーと対面しましたが、緊張と不安のせいで全く話せず、ホストマザーが話していることを聞きとるので精一杯でした。一生懸命聞いているのに理解ができなくて、会話に入れないことがすごく悔しかったです。

初めて自分たちだけで通学をする日にバスの時間を勘違いしてしまい、乗る予定だったはずのバスに乗れず、雨の中、学校まで歩きました。学校へ着いて、同じホームステイ先の子が歩いて来たことを説明してくれていたのに、私は隣で見ていることしかできず申し訳なかったし、何も話せなかったことがとても悔しかったです。しかしその日の夜からホストマザーとの会話が理解できるようになり、自然とその会話を聞いて笑うことができるようになりました。夕食の時間にみんなで話すことがだんだん楽しく感じるようになって嬉しかったです。

週末には2人で日本食を作りました。日本のカレーライスとお好み焼きを作りました。学校帰りにマザーとスーパーで待ち合わせをして、一緒に買い物へ行って材料を買って帰りました。家に着いて2時間かけて料理をしました。私は普段料理をしないので大変

なこともあったけど、2人で協力をして頑張りました。すごく楽しかったし、この時間を通してたくさん話せて、今までより仲良くなれた気がしてとても嬉しかったです。作った料理をマザーがとても気に入ってくれて、たくさん食べてくれました。お米が大好きだったそうです。2時間かけて頑張っただけよかったです。カレールーとお好み焼きの粉をプレゼントとして渡してきたので、作ってくれるといいなと思いました。



3人で食べる最後の夕食で、フィッシュアンドチップスを食べさせてくれました。イギリスに来て1度は食べてみたかったので、すごく楽しみでした。近くのお店に買いに行き家で食べました。初めて食べたフィッシュアンドチップスは想像以上に美味しかったです。山盛りのポテトに少し驚きましたが、とても美味しかったです。1番食べたかったものだったので食べるのができて良かったです。

最終日のカルチャーショーでは、事前研修で準備してきたものを発表しました。それぞれがこの日のために準備や練習をたくさん重ねてきました。当日は何度もリハーサルをして、何度も改善をしました。当日やろうと決めたことやダンスの練習をする場所など、臨機応変に対応しながらみんなで頑張りました。ダンスは当日までなかなか練習ができなかったので、本番までにたくさん練習をして細かい動きまで確認をしました。私はダンスが苦手で何度も教えてもらわないと踊れるようにならなくて、わかるまで教えてくれた子や練習に付き合ってくれた子には本当に感謝しかありません。本番では完璧には踊れなかったけれど、笑顔で踊ることができたと思うので良かったです。ホストマザーが写真を撮ってくれてすごく嬉しかったです。最後に楽しそうな姿を見せられたので良かったです。



そのあとはみんなで食事をしました。ダービーシャーや BSDC の偉い方や先生方、バディと一緒に楽しみました。BSDC の先生方やバディと過ごす最後の時間で寂しかったけれど、とても楽しい時間でした。たくさんの方と話すことができたのでよかったです。

最後の夜に、マザーが私たちに手紙と写真立てをくれました。マザーが今まで受け入れてきた生徒の写真の中に私たち2人の写真も加わっているのを見て、すごく嬉しかったです。

みんなが経験することができないかもしれない経験を私はすることができました。それは私に「行って見ないか」と声をかけてくださった学校の先生、派遣中に日本から元気をくれた友達、そして何より「行っておいで」と送り出してくれた家族がいたからです。だから私はこんなに素晴らしい経験をすることができました。派遣団のみんなや引率の先生方、今まで関わってきた全ての人に感謝しています。この感謝の気持ちを忘れずに、イギリスで学んできたことを日本でたくさんの人に伝えていきたいです。そしてもっと自分の英語力をあげられるようにこれからも頑張っていきます。



(1) ホストファミリーの紹介

今回、私はKinnard家にお世話になりました。父: Andrew、母: Claire、娘: Charlotte、娘の旦那さん: Daveの4人と、犬の親子Enya、Lilyで現在は暮らしています。

ホームステイでお世話になる前に、メールでお互いの家族の話などをしました。子供は男性3人、女性5人で孫は10人いる大家族との事です。

何回かメールのやり取りをする中でいつも、不安のないように気配りをしてくださいました。私のつたない英文に対しても「Your written English is good!」と褒めていただき、うれしかったです。

現地に到着したのは夜でしたが、AndyとClaireが迎えに来てくれました。



ホストファミリー

使わせていただくお部屋に入ると、「ようこそ我が家へ」という日本語のメッセージと、うさぎの形のお菓子が机に置いてあって、びっくりしました。

旅の疲れや、少し緊張していた気持ちがほぐれて、こんなに優しい人たちの家にこれから滞在させてもらえるのだなあ、とじんわり心があたたかくなりました。

また、Andrewはご飯を食べる時にいつも日本語で「いただきます。」と言ってくれて、イギリスにいるのに日本を感じることができました。Claireはお菓子作りが好きで、一緒にジャムやケーキを作りました。また私の話す英語が間違っているときは、違うところを丁寧に直してくれて、英語力を上げる手助けをたくさんしてくれました。

このような素敵な家族に出会うことができ、本当にうれしく思います。

(2) 派遣を終えて

EUからのブレグジット（離脱）という大きな問題の最中でのホームステイ。

日本のテレビでも、「大手自動車工場がイギリスから撤退決定」などと話題になっています。興味がわいたので、調べてみました。

イギリスは連合王国（イングランド・スコットランド・北アイルランド・ウェールズ）です。国民投票では「離脱」51.9%、「残留」48.1%と僅差で離脱が可決したようです。

（投票率は72.2%）

スコットランド・北アイルランド・ロンドン周辺には残留派が多かったようです。これは、とても興味深い結果でした。



現地の新聞

このことを現地の人に聞いてみました。イギリス国民としての意見を聞いてみたかったのです。

「本当に離脱した場合、今までのように自由にEU内での行き来ができなくなり、若い人が特に不便さを感じてしまう。」、それ以外にも「企業の問題、物価の問題、人口の問題など色々ある。」とも話してくれました。これから、本当にどうなるのだろうと思いました。私は日本では新聞をたまに読む程度なので、これからはもう少し政治に関心を持つべきだと考えました。

そのほか、BSDCのスポーツデーではラグビー、ネットボール、バスケットボール、卓球をバディーと共に楽しみました。

今年は、豊田スタジアムでラグビーワールドカップの試合もあります。中でも、私はウェールズ戦を観戦したいと思っています。



タグラグビーの説明

バディーと派遣団のみんなでスポーツを楽しむうちに、スポーツに対する気持ちが変わっていく私がありました。チームに得点が入ると歓声があがり、ひと汗かいた後は、敵も味方も関係なく会話が弾みました。バディーとは数日前までお互いを知らなかったのにも関わらず、スポーツを通して、距離が近くなったような気がしました。とても楽しい一日でした。

一番私の心に響いたのは、人の優しさです。今回もとても親切にしてくださったホストファミリーのおかげで、2週間安心して異文化の体験ができました。

「問題があれば何でも話してね。助けになるから。」そんな一言でどんなに安心したのでしょうか。本当に感謝しています。

異文化体験では特に、アフタヌーンティーという、紅茶と共に軽食やお菓子をいただく習慣がすばらしいと思いました。単に飲食を楽しむだけのものではなく、社交の場として使われ、礼儀作法、室内装飾、使用されている食器や飾られている花、会話内容など広い意味でセンスや知識、教養が要求される意味もあるようです。伝統と格式を大切にしている国ならではの習慣だと思いました。今では幅広い人々に普及し、礼儀作法や堅苦しい会話とは無縁で、気軽に楽しむ場合もあるようです。このようなすばらしい文化を大切にしていることに感銘を受けました。



アフタヌーンティー

そして、学んだこととして印象に残っているのは、自分から積極的に話すことの重要

性です。

私は中学三年生のときにも中学生派遣団として、豊田市からアメリカに派遣していただきました。その時は初めてのホームステイということもあり、自分が思ったことを伝えようとしてうまく英語が出てこず、相手に伝えることを諦めてしまうこともありました。

しかし、今回はそんな苦い経験を生かし、自分の英語に自信がなくても、なるべくたくさん話すように心がけました。すると、現地の人々はしっかりと耳を傾け、私の話を理解しようとしてくれ、さらに間違った言い方をしている時は訂正して教えてくれました。

また、話しかけたことで思いがけず会話が弾み、話も広がってうれしかったです。前回の時に比べ、自分の成長をしっかりと感じることができました。そして、これからの自分に必要であろうことをたくさん学ぶことができましたと思います。

今回の海外派遣では、ホストファミリー、BSDCの関係者の方々、引率して下さった先生方、豊田市職員の方々、そしていつも一緒にいてくれた派遣団のみんななど、本当に多くの方々に支えていただきました。この経験は私の人生の中で一生忘れられないものになると思います。

ホストファミリーとバディーにはお礼の気持ちを伝え、できればこれからも、コミュニケーションをとっていきたいと思います。

本当にありがとうございました。

10 豊田南高等学校

伊藤 さくら

(1) ホストファミリーの紹介

私は Baka 家に滞在していました。この家族は母親の Patricia、父親の Eric、そして 7 歳で姉の Emefa、6 歳で弟の Eli の 4 人家族ですが、Eric は単身赴任していて、3 人で暮らしていました。子供たちがとても元気で、朝から晩まで家中をローラースケートで走り回っていました。イギリスに着いて 3 日くらいは緊張してほとんど話すことが出来ず、ホストマザーとも事務的な確認で使う、ok,yes,no,good,thank you の 5 単語くらいしか話していませんでした。子供達と仲良くなれず落ち込んでいたところにホストマザーが「あなたはあの子達の言葉が聞き取れないのかもしれないけれど大丈夫よ」とゆっくり声をかけてくれて、焦らず少しずつ会話にチャレンジすることが出来るようになりました。

ファミリーは日本の文化に興味を持ってくれて、手拭いや扇子などのお土産をととても喜んでくれました。また、得意の習字を披露したところ、拍手をして褒めてくれました。そういった日本の文化や生活を紹介するところから話が弾むようになり、ホストマザー

との会話は増えていきました。



ホストマザーは強い女性で、2人の小さな子供を育てながら自分は働き、さらに大学にも通っていました。疲れていても笑顔を絶やさずに家事をこなして、子供達に優しく接し私にもたくさん温かく話しかけてくれて、帰るときには「勉強頑張って、またイギリスに来てね」と励ましてくれました。いつか彼女と再会してもっと話せるように、子供達とももっとコミュニケーションがとれるように勉強を頑張りたいと思っています。

(2) 派遣を終えて

私は今回、2回目の海外経験でしたが、前回は学校の友達と同じホテルに泊まって生活していたので、ホストファミリーと一緒に生活するのは初めてで、とても楽しみにしていました。そんな私の当初の目標はイギリスの人が日本に対して持っている印象や日本という国をどう思っているかを聞くことでした。正直に言うと私はこの目標を達成することが出来ませんでした。しかし、それ以上にたくさんを経験することが出来ました。そして、感じたことが4つあります。

1つ目は、やはり日本の英語とは違う ということです。私は英語という教科が好きで、定期テストでもものすごく高い点をとれるわけではありませんが、コミュニケーションは得意な方でリスニングにも自信がありました。渡航前に不安だったことは文法が出来ないことくらいでした。しかし、実際に現地が必要とされるのはある程度の文法と、それ以上に語彙力だと感じました。文法も確かに必要ではありますが、相手の言うことが分からないときに推測する糸口になるのは難しい文法ではなく単語です。そして、自分の言いたいことをどう伝えればいいのか分からないときに役立つのも単語です。これは最悪の状況での話ですが、単語さえ伝わればなんとかなりました。もしこの文章

を次に派遣に参加する人が読んでいるのなら伝えたいです。あなたがネイティブ並に英語を話せるわけではないのならば、まずは単語を1つでも多く覚えるべきです。自分の生活について英語で説明するときどんな単語が必要か。考えてみてください。

そして、得意としていたリスニングは、現地の人のお話スピードが日本のCDより格段に早くて、話す人の声の高さや癖によって、聞き取れたり聞き取れなかったり。自信があっただけにかかなりのショックを受け、初めの3日間くらいはナーバスになったりもしました。

そして、発音においても、緊張でどうしてもカタカナで喋ってしまい、初めは簡単な単語すら通じませんでした。ホストファミリーと初めて会ったときには自己紹介で言った high school が通じず、もう生きていけないかもしれないと本当に思いました。ナーバスになっていた3日間はほとんど自分から口を開くことなく ok, yes, no, good, thank you くらいしか言えませんでした。

2つ目は、リアクションの必要性 です。日本人はあまりオーバーなリアクションをしません、これに関しては人にもよりますがイギリスの人でも大してオーバーではありません。へえ、といった感じでした。ですが、私には多少オーバーリアクションの方が良いように思えます。理由は相手が、「相手が言ったことを私が理解出来ているか確認する」ためです。相手はもちろん私が英語に慣れていないことを知っているので、私が理解しているかを確認しながら会話をしてくれています。この場合、日本人であればうんうんと頷いていけば分かるのですが、イギリスの人にとって頷くだけでは理解しているのかそうでないのか曖昧なのではと感じます。ちゃんと目を合わせて話を聞いて、そこからさらに日本でいう、「了解です。」「分かりました！」「それな！」「まじ?!」「えー!!!」「やば!!」のようなリアクションの英語バージョンを習得していればもっと楽しく会話が出来たのと思います。

3つ目は、温かい態度 です。今回の派遣ではたくさんの外国人の人に支えて頂きましたが、ほとんどの方が普段話すスピードとほぼ変わらないスピードで私達に話をしてくださっていたんです。私は最初これを厳しさと捉えていましたが、不慣れな私達に合わせるのではなく、私達が慣れることが出来るようにスピードを変えずに「分からなかったら何でも聞いて、困ったら相談して」と寛大な態度で真摯に向き合ってくれているのだと途中で気づき、感動しました。

4つ目はスキルの大切さ です。周りの方の温かい態度のお陰で聞き取った単語で何とか言われていることを理解しながら生活していた私でしたが、それも所詮付け焼き刃だったのだと思知らされる出来事がありました。

それはクリエイティブメディアワークショップでのこと。パソコンでの作業をしていたときに2人いたバディのうちの1人が、私の画像でふざけて遊んでいたのです。肌の色を変な色にして他の人と笑い転げていて、怒りの感情が込み上げてきましたが、何を言えばいいのか分からず、結局何も出来ませんでした。私は人に馬鹿にされることが大

嫌いです。あの時ほど私に英語のスキルがもっとあれば良いのと思ったことはありません。

今こうして振り返ってみると他にもたくさんたくさん、いろんなことを感じて考えて2週間過ごしていたと実感させられます。こうして言葉に表すことが難しいくらい意識に根付いている経験もあります。そこから総じて思うことは、もっといろんな国に行つてたくさんの人と出会いたい、話をしたい、ということです。そして、当初の目標を達成して、社会の一員として国際交流に貢献したいです。この派遣でしか出来ない経験をさせていただいたこと、本当に感謝しています。ありがとうございました。

11 豊田高等学校

中條 明星

(1) ホストファミリーの紹介

今回私は Anne Brookes さんの家にホームステイしました。家族構成はホストマザーの Anne さん、ホストファザーの Martin さん、猫 2 匹です。

Martin さんは仕事の都合で休日にしか家に帰ってこられないので、多くの時間を Anne さんと過ごしました。

Anne さんは料理が得意で、出してくれる料理はどれも美味しく、毎晩の献立が楽しみでした。特に美味しかったのは Fish and Chips です。イギリス料理を手作りしてもらえて、とても嬉しかったです。

学校から帰ると「今日は何したの?」「楽しかった?」と質問をしてくれて、そこから話が広がりました。また、話をしている時に間違った文法を使っていたら「それはこう言うといいよ」と教えてくれました。聞き取れなかった時には、ゆっくり話してくれて、間違いを恐れず話しかけることが出来ました。

Martin さんとは旅行の話をしました。私が行ったことのない国の話をしてくれたり、旅行の思い出話を聞くことが出来て、私も行ってみたいなと思いました。Anne さん家で2週間を過ごすことが出来てよかったです。「またイギリスに来るね!」と約束をしたので、その約束を果たせるよう頑張りたいと思います。



(2) 派遣を終えて

待ちに待ったイギリス。代表に選ばれてからは、行く日までをカウントダウンしていたほど楽しみでした。私は小さい頃イギリスに住んでいたことがあったので、不安に思っていることはあまりありませんでした。

初めてホストファミリーと対面した日は緊張しました。自分の英語がきちんと相手に

伝わるのか、会話のキャッチボールが出来るのかなど、日本にいる時にはなかった不安が襲ってきました。しかし、ホストファミリーはとてもフレンドリーで、たくさん話しかけてくれたので緊張が解れました。私がホームステイした Anne さん一家は私達を家族のように受け入れてくださり、自分のことは自分です、というルールがありました。普段は親に任せっきりのことが多いので、自分の事は自分ですという責任感を持つことが出来たと思います。

Anne さんの家で 2 週間過ごして、日本とイギリスの文化の違いに触れることが出来ました。日本ではお皿を使ったらそのあとは洗剤で洗ったり、食洗機に入れたりしますが、イギリスでは水で洗い流すだけであまり洗剤を使っていませんでした。また、家に入る時も必ず玄関で靴を脱いだり、手洗いやうがいをきちんとしていたり、日本では当たり前のことがイギリスでは違って、逆に「何もかも綺麗すぎて健康に悪いんじゃないの?」と言われました。また、「洗剤を使いすぎているから環境にも良くないよね」と言われ、洗剤を使う量をもう一度見直した方がいいなと思いました。

私が派遣中に唯一パニックになったのはバスです。今回の派遣で初めてバスを利用したのですが、日本に比べてバスの数が多くわかりづらかったです。またバス停もわかりづらいので、周りの景色を覚えていないと降り忘れそうにもなりました。Anne にバスの番号と道の名前を教えてもらい、「ここで降りれば家に着くよ」と予め教えてもらっていましたが、バス停に行くと同じようなバス番号が多く、混乱しました。私は主に 9 番と 19 番を利用していましたが、初めてバスを利用する時に来たバス番号は 19 番 B でした。このバスでも着くかな?と疑問に思ったので運転手さんに聞きました。そしたら、「このバスは貴方の行きたい所には行かないよ」と言われました。イギリスのバスの時刻表はとても見にくく、一時間に何本バスが来るのか分からなかったもので、時刻表と睨めっこをしていたら、バスを待っていたおじいさんに話しかけられました。「どこに行きたいの?」と聞かれ、「Ashby Road (Anne さんの家の住所)に行きたい」と伝えました。この話を隣で聞いていた女の人に「私が降りる場所から近いから、私と一緒に降りれば大丈夫だよ」と言われ、一緒に降りたら、朝見た道で無事家に着くことが出来ました。日本では困ったら自分から聞きに行きますが、イギリスでは困っている人がいたら声をかける人が多く、思いやりがあるなと思いました。バスを乗り降りするときも「Cheer」や「Thank you」など言っていて、日本人も見習わなければいけないなと思いました。その他にもドアを開けてくれたり、ベビーカーをバスの中に運ぼうとしていた人に声をかけ、ベビーカーを持ってあげていたり、イギリス人の優しさを色んな場面で発見することができました。

また、私達と 2 週間一緒にいてくれたバディーもとても優しい人達で、日本のことに興味があって独学で日本語を勉強していたり、日本語を話してくれたり、感動しました。バディー以外にも歳の近い生徒さんと関わる機会が何度かあって、普段彼らが話しているスピードで話しかけられたので聞き取れなかった部分もありましたが、聞いた時にわからなかった言葉をリピートしたら簡単に説明してくれたり、上手く英語で伝えることが出来なかったときも、私の身振り手振りを見て言いたいことを読み取ってくれたりして、コミュニケーションを取る事ができました。

私はこの 2 週間で人に積極的に話しかけることができました。上手く伝わるか不安に思うと声が小さくなってしまった時もありましたが、Anne に「大丈夫、自信を持って」

と言われてからは堂々と話すことが出来たと思います。カルチャーショーの時も、自分の英語が聞き取ってもらえるか、読み方を間違えていないかという不安から練習の時にずっと原稿を見ていましたが、自信をもって“私ならできる”と思ったら自然と顔を上げて話すことができ、本番では練習の時のことが嘘のように、聞いてくれている人の顔を見て話すことが出来ました。発表が終わったあと、Anneに「Excellent！！」と言ってもらえて凄く嬉しかったです。

毎日が充実していてあっという間に2週間終わってしまいました。たくさんのごことを学ぶことが出来ました。色んな人の支えがあったからこそ行けたと思います。関わってくださった方々に感謝をしつつ、将来に活かしたいと思います。そしてまたイギリスに行きたいです。



12 豊野高等学校

加藤 実子

(1) ホストファミリーの紹介

私は2週間 Kinnard 家にお世話になりました。今は、ファザーの Andrew (アンディー)、マザーの Claire(クレア)、娘の Charlotte(シャーロット)と夫の Dave(デイブ)の4人と、Lily(リリィ)、Enya(エンヤ)の犬2匹で暮らしていました。Andrew は、明るくて、カルチャーショーの時に渡したヨーヨーをメガネにかけていたり、面白い方でした。「いただきます」「ごちそうさま」を毎回日本語で言ってくれ、私たちの緊張を解いてくれました。今は動物関係の仕事をしています。Claire はとても優しく、朝か

らラジオの音楽をかけノリノリにダンスをしていました。私の英語を直してくれたり、寝る前にはハグをしてくれたりしました。Lily と Enya はフレンドリーで、頭をなでるのをやめると膝に頭を乗っけてきておねだりするのがとても可愛かったです。

イギリス料理はあまり美味しくないと聞いていましたが、実際に食べてみるととても美味しかったです。特にディナー後のデザートは甘くて美味しく、クリームをたくさんかけて食べていたら、Andrew に「Miko!No!!」と言われてしまいました。日曜日はホストファミリーがオックスフォードへ連れて行ってくれました。「ハリーポッター」に出てくるダイニングホールがある Christ Church College と、不思議の国のアリスのショップへ連れて行ってくれました。ずっと行ってみたいかったハリーポッターの聖地は嬉しさと、一枚だけあるアリスのスタンドグラスを見つけることができ、すごく興奮しました。観光もショッピングも充実し、連れてきてくれたホストファミリーにとっても感謝しています。2週間とても親切にしてもらい、たくさんの思い出が出来ました。受け入れてくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。



(2) 派遣を終えて

約 16 時間のフライトは、初めて訪れるイギリスへの不安と緊張、期待で胸がいっぱいでした。ホストファミリーと会い、ホームステイ先へ向かう時、Andrew と Claire が町の説明やフライトについての質問を沢山してくれました。その日の夜、Claire が Lily と Enya の散歩へ一緒に連れて行ってくれました。裏道へ入っていくと一気暗くなり怖かったけれど、上を見上げると夜空いっぱい星が広がっていて、今まで見た夜空の中で一番きれいでした。

【4 日目】この日はミニオリンピックが開かれました。私は南アフリカチームのメンバーとして競技をしました。卓球、ネットボール、バドミントン、バスケットボール、タグラグビーをしました。私たちのチームは 1 位をとることができたのですごく嬉しかったです。スポーツを通して、言葉の壁が少し壊れ、バディの子とたくさん話



せたのでうれしかったです。

【8日目】日曜日はホストファミリーと過ごす日でした。ホストファミリーは私達をオックスフォードへ連れていってくれました。観光やショッピングなど私達が満足するまで付き合ってくれました。2人は私達を本当の家族みたいに接してくれて、本当の家族ではないけれど家族の温かさを感じました。



【12日目】この日がBSDCへ通ったり、バディと会ったりする最後の日になりました。カルチャーショー本番、ヨーヨーやお団子を喜んでもらえたのがすごく嬉しく、日本のお祭りを今度は生で見てもらいたいと思えました。修了証書をもらい、短い期間だけれどたくさんの事を学び、たくさんの人と出会えたことが私にとって大きな経験になったと感じました。



イギリスでは、日本の常識とは違うことが多くあり、とても驚きました。町には横断歩道が少ないので、渡る時は走っている車と車の間を渡らないといけませんでした。また、家などはレンガで作られていて街並みがきれいだったのに、ゴミのポイ捨てが多く、せっかくきれいなのにもったいないと思いました。けれど、イギリスは優しい街だと感じる場面も多かったです。お店の扉を開けたまま、知らない人の為にも押えてくれる人が多く、バスの運転手さん、乗る人、降りる人が「Thank you」と言っていました。イギリスではみんなが「Thank you」と言っていたので、それが当たり前だということがすごいし、日本人も見習わなければいけないと思いました。

日本では出来ない体験が出来、ホストファミリーやバディのみんなに出会えたこの2

週間は、私を色々なところで成長させてくれたと思います。私は、日本だけでなく他国や世界を知り、自分の視野、将来の選択や、自分が持つ考えを広げ、たくさんの場所で活躍できる人に成長していきたいと思います。これからもいろいろなことに挑戦し、人と出会い、日々レベルアップできるよう頑張ります。今回の経験を、これからの高校生活や将来へと活かしていきます。

13 杜若高等学校

山岡 桂菜

(1) ホストファミリーの紹介

私のホストファミリーは、Father の Chris と、Mother の Lyn、Sister の Shannon と、Brother の Tom、そして猫の Shimon の 5 人家族でした。初日、BSDC にバスが到着すると、Chris、Lyn、Shannon が待っていてくれて、笑顔で迎えてくれました。私が、「Where is Tom?」と聞くと、「He is cooking dinner at home!」と答えてくれ、初めて会話できたのと、帰宅後の夕食が楽しみになり、とてもわくわくしました。その後、Tom が作ってくれたラザニアを食べました。あたたかくて、とてもおいしかったのを覚えています。

次の日からは学校が始まり、朝はバスでの通学が始まりました。初日のバスは 40 分以上遅れて来て、日本ではありえないことなのでとても驚きました。また、40 分間ずっと一緒に待っていてくれた Lyn と、途中家から駆けつけてくれた Shannon には、本当に感謝だなと思いました。

水曜日には、夕食後に Shannon と Tom と一緒に洋楽を歌って楽しみました。Pharrell Williams の『Happy』が好きと伝えたら、歌からミニオンズの話につながり、会話を楽しむことができ、とても嬉しかったです。

日曜日には、Chris と登山へ行きました。私は高い場所が苦手なのですが、Chris に支えられながら頑張って頂上まで登り切りました。そこからの景色は本当に美しく、日本では見られないような街並みや、自然の豊かさを体感することができました。

猫の Shimon は、私が起床、帰宅をすると必ず近くに来てくれて、心を癒してくれました。

私は今回の派遣で、Barrow family に受け入れていただいて、たくさんの貴重な思い出を作ることができました。途中、英語が伝わらず、心が折れそうになったこともありましたが、最後まで頑張ってよかったなと心から感じています。この出会いを大切にしたいです。



(2) イギリスでの生活を通して

私は今回の派遣で、計2回目となるイギリス・ダービーシャーへの訪問、そして、ホームステイを経験しました。貴重な経験を2回もさせていただいた私ですが、この14日間の派遣の間では、なかなか語学力を高めることができませんでした。

今回の派遣で学んだことは、外国で暮らしていくことの厳しさです。私が前回派遣に参加した時のホームステイの日数は、計5泊というとても短い期間でした。それに対して、今回の派遣では12泊、前回の2倍以上もの期間、ホストファミリーの家に滞在しました。昨年のホームステイで何の問題も起きずに過ごせた私は、正直少し油断していたんだと思います。今回も、ホストファミリーとはきっと仲良くなれるだろう、優しく接してくれるだろう、そう決めつけていた部分がありました。

でも、現実はどうもうまくはいかず、ホストフレンドとの距離が縮められなかったり、自分の英語がなかなか伝わらず、精神的にストレスがたまってしまったり、ホームシック



になってしまうこともありました。ですが、豊田市の代表として海外派遣に参加した身としていつまでも怖がっているわけにはいかなかったので、自分から話しかけることを意識しながら頑張りました。すると、1日限定のバディとすぐに仲良くなることができました。やはり、自分から声をかける勇気は裏切らないな、と感じました。

ホストフレンドと仲が深められなかったのは、なかなか共通の話題を見つけることができず、話が続かなかったことが原因だったのではないかなと感じています。実際、私が大好きな音楽の話をホストフレンドに持ちかけたときは、一緒に歌ったり、話題が広がり楽しく会話することもできました。共通の趣味や特技などを持っていれば、もっと話題を広げられることを実感できたので、視野を広げて色々な事に興味を持つべきだと感じました。

また、スポーツデーでは、全くかかわったことのなかった子達と一緒にスポーツを楽しみました。関わりの無かった子とでも楽しむことができ、スポーツや音楽は世界共通の話題となる素晴らしいものだと思改めて実感しました。



語学力を高められなかった原因として、自分の英語力が足りなただけではなく、相手と話すときの心の持ちようも大切だだったのだと、今になって感じています。イギリスの方と会話するときの私の心には、必ずと言っていいほど、不安や心配といったネガティブな気持ちが存在していました。自分の語彙力に自信がない、それはきっと、日本から来ている派遣団の仲間のほとんどが感じていた不安だったと思います。でも私の場合、それを会話中にずっと考えてしま

っていたため、現地の方にも不安な気持ちを感じさせてしまっていたのかもしれませんが。

私たちが外国人の方と日本語で会話する機会があった時、私たちは無意識に、拙い日本語を理解しようとゆっくり聞き取ろうとしますね。思い返してみると、イギリスの方もそれと同じように、私たちの拙い英語を理解してくれようとしていたように感じられました。その思いやりを少し無駄にしてしまった部分があったと感じ、少し申し訳なく感じています。

このように、ホームステイ中の自分の生活を思い返すと、反省すべき点がいくつも思い浮かんでいきます。海外で暮らすという事は、まだ未熟な私にとってはとても大変な事でした。でも、反省や後悔ばかりしていても何の成長にもならないので、この反省をこれからの自分に行かせていけるよう、努力していきたいと思います。

私には、今回の派遣の目標として、「自分から積極的に話しかける」「どんな時でも常に笑顔でいる」という事がありました。それはホストファミリーに対してだけでなく、学校の先生やバディ、地元のお店の方などすべての方々に対してという意味でした。でもその目標を実行に移すという事はとても難しく、そう簡単にはいきませんでした。もちろん、話しかけたすべての方々が笑顔で対応してくれるとは限りませんでしたし、自分の気持ちをうまく伝えることができず、話が止まってしまったりすることもありました。



ですが、このような外国の厳しさや、日本人との違いなどは、この派遣に参加した全員が知られるわけではありません。私は本当に貴重な体験をさせていただいたな、と心から感謝しています。イギリスで過ごしたすべての日が楽しかったかといわれると、決してそうではありませんでした。でも、つらいことがあったからこそ海外の厳しさを知ることができたんだろう、と、今では前向きにとらえることができます。12日間という期間の中で、充実した生活を送り、大きな収穫が得られたことを誇りに思っています。

この貴重な経験を無駄にせず、これからの英語の勉強、そして国際関係の学習などで生かされるようにしたいです。

14 豊田大谷高等学校

吉坂 将

(1) ホストファミリーの紹介

今回僕は、Simpson 家の方々にホームステイさせて頂きました。以前にもフランス人学生を受け入れたことがあるお宅です。ホームステイの際、一緒に暮らしていたのは55歳の妻 Elizabeth さん、59歳の夫 Chaim さん、そして23歳の長男 James 君と

2匹の猫です。

妻の Elizabeth さんは料理が得意で、滞在中の2週間毎日違った料理を作ってくださいました。イギリスの伝統的な食事であれば、他の国の伝統料理など様々な料理を振舞って下さいました。フィッシュ&チップスも頂きました。どれも本当に美味しかったです。

夫の Chaim さんは気さくな人で、イギリスでよく行われるカードゲームを紹介して下さいたり、映画などを一緒に見ようと誘って下さったりと、とても親しみやすい方です。時々面白いジョークを挟んでくれたりして、緊張していた自分があっという間に消えていました。

長男の James 君は武道が趣味と伺っていたので少し怖いイメージがありました。しかし、そんなことは全くなく、いつでも優しい表情で接してくれて、とても話していて穏やかになりました。彼は武道の他にジャズギターをやっているそうで、たまたま自分がギターをやっていることもあり、音楽の話をたくさんすることができました。一緒にギターを弾いたり、自分の好きな曲を共有したり、とても充実しました。

2匹のネコはとてもシャイな性格でしたが、一匹は一週間が経った頃、僕の太ももの上に自ら乗ってきてくれました。とても可愛かったです。

またいつかあの温かい家族に会いに行きたいです。

下の写真はホストファザーの妻の Elizabeth さんと Calke Abbey に行った時の写真です。



(2) 最高の2週間

僕にとって初めての海外、イギリス。飛行機で約13時間のフライトを経て僕らはその地に降り立った。初めての雰囲気、景色。こうして僕らの最高の2週間が始まったのでした。

今回の派遣で僕はたくさんの出会いと、たくさんの経験をすることができました。現地の方々の英語はとてもスピードが速く感じ、発音が少し異なる単語もあり、初めは聞き取るのに精一杯でした。しかし、時間が経つにつれて段々慣れてくると、返事が通じることが多くなりました。そのおかげか、バディの学生さん以外の学生の方や、現地の

学校の先生方とも仲を深めることができました。今まで英語の授業を受けていく中で、明確な目標というものがあまりありませんでした。しかし、実際に生の英語を肌で感じたことで、もっと話せるようになって色々な人と出会うという目標ができました。

僕が思うこの研修2週間の中の印象に残った3日を、今から紹介したいと思います。

3月13日水曜日。この日は僕の大好きなスポーツレクリエーションの日でした。僕らは日本、南アフリカ、イングランド、フィジー、オーストラリアの5チームを作り、競技ごとの勝ち点を競い合いました。ちなみに僕はフィジーチームでした。卓球、ネットボール、バトミントン、バスケットボール、タグラグビーを行い、結果4位でしたが、現地の学生の方とスポーツを通して友達になり、色々な方とコミュニケーションをとることができ、“スポーツは人をつなげる”ということを実感できました。



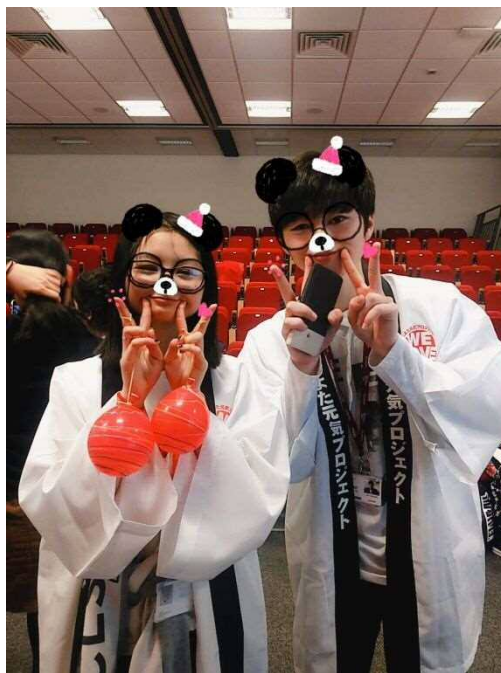
3月16日土曜日。イギリスの都市ロンドンの視察の日でした。日本のようにビルが建ち並んでいる風景とは違い、昔ながらのようなレンガの建物が多くあり、とてもイギリスならではの雰囲気を感じることができました。

僕たちは初めに大英博物館を訪れました。外観は壮大で、神殿を思わせるような造りでした。早速中に入ると、大きなホールがあり、いろんな国の展示物のスペースがありました。中には日本の展示物もあり、エジプトの有名な物や教科書で見たことのある歴史的な物までさまざまありました。実は僕はロゼッタストーンという古代文字とラテン文字が刻まれた石を見るのが目的でした。1時間という限られた時間でつけることは困難かと思いきや、奇跡的に最後の最後にその姿を目にすることができました。とても満足でした。その後はロンドンの街を歩いて昼食をとり、ビッグ・ベンとウエストミンスター寺院を見に行きました。川を挟んでしか見ることはできませんでしたが、遠くから見ても大きく見えて本当に良かったです。最後はエリザベス女王がいらっしゃるバッキンガム宮殿を見に行きました。宮殿周りは少し緊張した雰囲気がありました。宮殿内には本物の銃を持った警備員と微動だしない兵隊が構えていて少し怖かったです。



3月21日イギリス滞在最後の日。カルチャーショーの日がやってきました。朝から夕方にかけて、さまざまな準備を経て開催されました。ホームステイをさせていただいた

家族や2週間僕たちと共に行動してくれたバディの学生、そして現地の先生。たくさんの方々に来ていただきました。僕は司会で緊張していましたが、バディの学生の方々が生振り手振りでこちらに「頑張ってる」と言ってくれた時、本当に心が温まりました。モニターを使ってプレゼン、ダンスを行い、日本の屋台を開きヨーヨーをプレゼントしました。最後に学校の先生から賞状をもらい、僕ら一人ひとりの感想の時間。こうしてカルチャーショーは幕を閉じました。何人かの仲間が涙を流しながら感想を言う姿に、僕もつられて泣きそうになりながら笑顔を保っていたことを覚えています。精一杯の感謝を伝えることができて良かったです。ディナーの時間はバディの学生と過ごせる最後の時間でした。色々な所と一緒にいき、たくさん関わってくれたのが彼らでした。本当に寂しくて、思いをさせ、別れを告げました。



この2週間は僕にとって本当に大切な時を刻んでくれた最高の2週間でした。今でも鮮明に思い出せるくらい心に残る充実した毎日でした。この中で出会った多くの方々との出会いに感謝し、それを忘れることなく、今後自分が生きていく中でかけがいのない思い出とします。最後に今回の派遣に協力していただいた市役所の方、講師の方、引率して下さった先生、家族、そして今回一緒にイギリスに行った14人の仲間へ、こんなにも貴重な体験をさせていただいて感謝しています。この経験を活かしてさらに自分が成長した姿を見せることができるように精進していきます。

本当にありがとうございました。

15 南山国際高等学校

北野 美緒奈

(1) ホストファミリーの紹介

私は今回 Phillips 家に二週間お世話になりました。Phillips 家はホストマザーの Elaine の一人暮らしのお家でしたが、とても温かく迎え入れてもらえました。彼女はスイミングスクールの先生とスーパーマーケットの仕事を掛け持ちしているのでとても忙しそうでしたが、合間の時間を使ってフィッシュ&チップスのお店に連れて行ったりしてくれる素敵な方でした。

私は今回が初めてのホームステイだったのですが、Elaine はホームステイの受け入れをたくさんしていて、英語を聞き取れるようにゆっくり話してくれたり、たくさん食べられない私たちにビュッフェ形式でご飯を出してくれたりと配慮してくれて、生活し

やすかったです。ホストファミリーとの思い出で一番印象に残っているのは、私たちが Elaine に日本食を作って一緒に食べたことです。私たちはお好み焼きとカレーを作ったのですが、とても美味しいと言ってたくさん食べてくださり、友達にも自慢してくれて嬉しかったです。また、日曜日の夜には、娘さんの Michelle と、Michelle の旦那さんが作ってくれたディナーと一緒に食べて、とても美味しく感動しました。ディナーの後も一緒にボードゲームをしてくれたりして、とても楽しかった思い出です。

最終日には一緒に撮った写真を額に入れて、ハンドクリームやチョコレートと一緒にプレゼントして下さり、ハグして「いつでもまた遊びに来てね」と言ってくれて“二週間頑張ったな”と自分が誇らしくなり、ホストマザーへ感謝の気持ちが溢れ出て、日本に帰るのが寂しくなりました。



(2) 派遣を終えて

今回のダービーシャー派遣ではとても貴重な体験をさせていただきました。私はもと、人と関わるのが好きなのですが、中高一貫校ということもあり、限られた人しかあまり関わっていませんでした。しかし今回、同年齢で全く違うバックグラウンドを持つ違う高校の子達と話すことで、自分の視野が広がり、新しい考え方などを学びました。また将来、国際関係の仕事をしたいと考えている私にとって、今回の派遣は英語のレベルを高めるだけでなく、コミュニケーション能力を育むという面で大いに役立ちました。ホストファミリーにも「今までのホストスチューデントで一番英語ができる」と言われて本当に嬉しかったです。

今回の派遣で私が一番印象に残っているイベントは、スポーツデーと Toyota Motor Manufacturing UK に訪れたことです。まずスポーツデーでは、みんなと本気でスポーツをすることでより親睦を深められたと思うし、私たちのグループが優勝したので本当に嬉しかったです。イギリスのトヨタ自動車の工場は環境を守るためにたくさんの対策をしていることがわかりました。さすが“世界のトヨタ”と呼ばれるだけあるなと感じました。



私は今回の派遣でバディーたちと過ごしている時間が一番楽しかったです。初めはぎこちなくても、最終日には皮肉を言い合えるような仲になっていました。毎日買い物についてきてくれたり、一緒にランチを食べてくれたりして、毎日本当に優しくしてくれたハナ、ジェイコブ、シーナ、パトリックには感謝しても仕切れません。BSDCの生徒は、バディーだけでなく全員が積極的で、本当に過ごしやすかったです。毎日BSDCに通うことが楽しくて、朝起きることが幸せでした。BSDCの生徒と話して、イギリスの人たちと日本人との違いにたくさん驚かされました。日本人は初対面であまり話しませんよね？しかし、彼らは初対面から将来の夢などの話題を積極的に話してくれて、これが海外のフレンドリーさの秘訣なのかなと思いました。日本人にはない良さが詰まっている最高のカレッジでした。BSDCには私たち日本人の生徒以外にも韓国人のexchange studentの人たちもたくさんいて、彼らと食事をする機会がありました。年齢も文化も違う彼らと話すことはとても難しいように見えたけど、とてもフレンドリーで安心しました。彼らは共通して『日本が一番いい』と言います。無い物ねだりなのか本当にそうなのか、自分の目で見て確かめてみたいと思いました。



初めて親から長期間離れ、不安でいっぱいでした。最初は本当に上手くいかず、たくさん問題も起こったけど、みんなで成長できた派遣だったと思います。私が今回一番成長できたと思うエピソードとしては、バディーと宗教など深く掘り下げた内容の会話ができるようになったということです。バディーの中で宗教を信仰している子がいて、日本でその宗教の理解度、自分自身の意見などをお互いに言えることができたとき、これが本当に国際交流ということかと思いました。また、私は途中で体調が悪くなり病院に行ったのですが、緊急時に自分で何もかも英語で話さなければいけないことにパニックになりましたが、大変良い経験だったと思います。怖い思いはしたけど、たくさんの経験を踏み、また自分自身が学べたと思います。

また、いつもは旅行として行く海外が、初めて「派遣」という形で行くことで、自分と年齢の近い子たちの海外での教育を見て、日本との違いに圧倒されました。同じ歳で

もみんな明確な夢を持ち、写真やエンジニア、調理など自分の興味がある分野に特化し、実践して学んでいくスタイルの教育は、私の理想そのもので羨ましくなりました。BSDCの学生はみんな日本の学生より「自分は大人だ」という自覚が強かった気がします。自分の行動や発言に責任を持っているだけでなく、自分の将来を本気で考え、その夢を達成するために努力する姿勢は日本の高校生とはまるで違うものでした。自分も“自身の目標に向かって自分なりに頑張らなきゃ”とモチベーションが高まりました。

イギリスで過ごした二週間は、本当にかけがえのない思い出だけでなく、新しい目標を得ることができました。たくさんの素敵な人たちに出会えて本当に幸せです。いつかまた自分の英語力を向上させて、みんなに会いたいです。この派遣に参加するにあたって協力してくれた両親、先生方、市役所の方々、一緒に頑張ってきたみんな、現地の生徒の人たち、全員に感謝しています。本当にありがとうございました！

引率教諭 衣台高等学校

青木 麻衣

(1) BSDCの様子

BSDCカレッジでは、バディ（現地の学生）とともに、英語で授業を受けました。考えていることはたくさんあっても、うまく言葉にできなかつたり、うまく伝わらなかつたりと表現に困っている場面も多くありましたが、バディの生徒は一生懸命話を聞いてくれ、上手に関係を築いていたようでした。英語のディベート、スポーツ、アフタヌーンティー講座、PCを使って写真を加工する授業は多くの生徒にとって初体験の行事であり、英語での説明に戸惑いながらも、仲間と協力して理解しようと努力している姿が印象的でした。バディの中には、それぞれのコースを代表する生徒もおり、「誰かを助けることが好きだから」という理由で、派遣団のサポートをしていました。彼らは周囲をよく見ながら行動し、わかりやすい英語を使って接してくれ、カルチャーショーの際も積極的にアドバイスをくれました。また、現地のスタッフの方々はとても親切で、困ったことがあればすぐ対応してくださいました。表情を見ながら生徒に声をかけてくださり、私たち引率教員に対しても問題はないか常に気を配っていました。バディやスタッフの方々の手厚いサポートがあったからこそ、生徒たちも安心して学校生活を送れました。

(2) ホームステイ

多くの生徒が初めてのホームステイで、日本での生活とは異なる部分に初めは戸惑っているようでしたが、日曜日のホストファミリーとの自由行動では、各自がホストに提案された場所や、自分の行きたいところを伝えて有意義な時間を過ごすことができました。何をして過ごしたかを教えてくれる生徒たちの表情は生き生きしており、数日のうちに知らない土地や文化に適應していくたくましさを感じました。自分で問題を解決するしかないという状況に置かれ、困難な時の対処方法は積極的にコミュニケーションを取ることだと多くの生徒が実感したことと思います。外国という土地であっても、日本であ

っても、積極的な姿勢を忘れず自分の力で問題解決に向かうという大切さを学びました。

(3) 英国トヨタ自動車訪問

英国トヨタ自動車の見学では、現地工場の寺元さん、高橋さん、案内のマンディさんの話に真剣に耳を傾けている生徒の姿が印象的でした。工場内の見学はとても臨場感があり、常に冷静に協力して仕事をしている社員の方々の姿や、現地で仕事をされている日本人の姿は、彼らにとっても、いい刺激となりました。

(4) まとめ

緊張して迎えた出発挨拶の際に、「新たな経験を通して新しい自分を発見すること、困った時は仲間と協力すること」を伝えました。帰国時、生徒たちのホストファミリーとハグをして別れを惜しむ姿や、乗り継ぎの空港で自主的に英語を使って行動する姿を見て、2週間という時間の中で成長したように感じました。高校時代にこのような経験ができると、新しいものの見方や考え方を身につけるきっかけになります。いつもとは違う環境や、初めての体験をすることにはとても勇気が必要ですが、一步踏み出せばそれが困難なものでも必ず成長につながると思います。今回2週間やりきったという達成感には彼らに自信を持たせたに違いありません。研修に関わった方々に対する感謝の気持ちや、学校の代表として参加したという誇りを忘れず、さらに自身を高めて活躍してほしいと思います。

引率教諭 豊田東高等学校

大槻 規子

ダービーシャー高校生派遣の引率を終えて

(1) バートンアンドサウスダービーシャーカレッジ (BSDC) について

BSDC ではさまざまなコースやレベルに分かれ、多くの生徒が学んでいます。私が勤務する豊田東高等学校の総合学科と雰囲気似ていて親しみを感じました。今回一番お世話になったのは、スタッフのアンとステファニーです。彼女らは毎日のスケジュール調整など本当によくサポートしてくれました。派遣事業の企画や計画だけではなく、毎日の生徒との何気ないやりとりにも彼女らの優しさやホスピタリティーを感じることも多く感心しました。生徒たちも彼女らと一緒にスポーツをしたり、楽しそうに会話をしたりすることを通して、困ったことは何でも相談できるよい関係を築くことができたと思います。また、生徒たちにとってはバディの存在が学校生活では欠かせなかったと思います。4名の現地校の生徒が親身に派遣生徒たちをサポートしてくれました。そのうちの3名は、日本の「生徒会」にあたる組織の生徒たちでした。授業や校外視察など常に生徒たちに寄り添い助けてくれました。彼ら自身の勉強は大丈夫なのだろうか、心配になるほどの献身ぶりでした。とてもありがたかったです。

(2) BSDC でのプログラムについて

生徒たちにとっては大変有意義なプログラムが多く組まれています。「私が高校生のときに、こんな派遣プログラムがあったらよかったのに。」と滞在中に何度も思いまし

た。

① 英語入門講座・英語講座

英語入門講座では、自己紹介の仕方やイギリスの地理を学びました。英語講座では、英語のディベートやプレゼンテーションの仕方を勉強しました。両講座とも教えてくれたのは、ESL(English as a Second Language)クラスを担当している英語の先生で、大変分かりやすく、かつ程よい難しさもあり、生徒たちは課題への達成感も味わえるよい講座だったと思います。英語の教師として参考になることも多く、私自身勉強になりました。また、パワーポイントやYouTube を常に使える教室環境をとてもらうことができました。

② イギリス料理体験とクリエイティブ・メディア・ワークショップ

イギリス料理体験では、アフタヌーンティーのお菓子やサンドイッチを作ったり、テーブルセッティングを教えてもらったりしました。クリエイティブ・メディア・ワークショップでは、お互いに撮影し合ったネガを暗室で現像し、その後自分たちの写真を使って、アート作品を作りました。両体験ともコースに在籍している個性豊かな現地の生徒たちと先生に手伝ってもらいながらの実習でした。「どこの国の高校生も同じだなあ」と現地校の生徒たちの自然な姿と教師とのやりとりを興味深く観察していました。

イギリス料理体験を行った校内の1Fレストランは、普段は生徒が運営しているレストランで、一般の方々に開放されています。比較的安く、おいしいものが食べられるので、予約がかなり入っているようでした。生徒が実習中も一般の方が予約を取りに訪れていました。

③ リッチフィールドとロンドン日帰り視察、サドバリーホール視察

派遣プログラムには日帰り視察もあり、イギリスの歴史や文化を多く感じることもできました。特に、リッチフィールドとサドバリーホールは事前学習した後の見学だったため、歴史的背景が理解しやすく、生徒たちにとって、大変有意義な視察になったと思います。ロンドンにはバスで約3時間かけて大英博物館近くまで行き、見学した後は地下鉄での移動でした。ビッグ・ベン、国会議事堂、バッキンガム宮殿へ行きました。地下鉄は便利ですが、駅構内が広く意外と移動に時間がかかり、予定していたウェストminster寺院には行けませんでした。ビッグ・ベンと国会議事堂はバスから眺める程度でよかったと思います。大英博物館の見学時間は1時間しかなく残念でした。一日あっても見切れない大きな博物館なので、ここも事前学習をした上で、もう少し長く見学する時間が取れると生徒たちにはよかったのではないかと思います。

④ 英国トヨタ自動車訪問

豊田市の派遣団だからこそ訪問できる貴重な機会になったと思います。トヨタ自動車がいかに自然環境に配慮しているか、また地域社会や教育に貢献しているかがよく分かりました。工場を案内してくれたマンディさんの生徒への熱いメッセージがとても印象に残っています。

(3) 派遣生徒のみなさんへ

今回、ダービーシャー高校生派遣引率教諭として参加できたことは、大変光栄に思っ

ています。みなさんとともに、貴重な経験をさせていただきました。イギリス滞在中は出来るだけ記録に残そうとたくさんの写真や動画を撮り、みなさんがすぐに見られるように、またホストファミリーとの会話のネタに利用できるようにとの思いもあり、LINE上でどんどん写真を追加していきました。今振り返ってそれらを見ても、皆とてもよい表情で活動をしています。心配なことや嫌なこと、失敗したことも多くあったと思います。それでも、自ら考え、よりよく行動することができるすばらしい生徒たちでした。今回の派遣を通して、学んだことはたくさんあったと思います。英語やイギリスの生活習慣、文化、歴史だけでなく、日本のよさも知り、改めて日本の家族のありがたさも感じたのではないのでしょうか。各高校の代表として参加した生徒のみなさん、自信をもって、これからもさまざまなことに挑戦してください。Seize your dream!

英語感想文

Reflections on experiences in Derbyshire, written by
each student in English

Mio Matsui

Great two weeks

I had great days in UK. Thank you so much. It was my dream to go to UK since I was a junior high school student. So I'm happy to make my dream come true. I could experience a lot of things which I can't do in Japan. The thing I remember the most of all is to visit Lichfield Cathedral. It was a huge building. And It was made in detail. I was impressed to see it.

It is very difficult to speak English. But English is always required to make my dream come true. So I thought that I have to study English a lot.

I want to go to UK again. And I want to meet host mother and buddy.

Mayu Kirihara

Memorable Experience

Thank you for about two weeks! I enjoyed talking with a lot of people. I was very impressed with their kindness. I was so nervous but host mother and buddy were so kind that I can talk a lot. It become one of my memorable experience.



Risa Hamai

~The world is so small~

My English is not good but my favourite subject is English. It is difficult for me to listen to English.

I enjoyed staying in England.

My host mother is kind.I talked about England and Japan with her.

I think England people are very kind.They have good smile and kindness.

I want to go to England again.My host mother says "Maybe one day we will meet.

The world is so small."I think so too. Communication is important.

A lot of ways of communication is strongest.I think best way is speak English.

I want to make friends from different countries! For that purpose,I must study English from now on.

Rino Miyazaki

~The world is so small~

My English is not good but my favourite subject is English.It is difficult for me to listen to English.

I enjoyed staying in England.

My host mother is kind.I talked about England and Japan with her.

I think England people are very kind.They have good smile and kindness.

I want to go to England again.My host mother says "Maybe one day we will meet.

The world is so small."I think so too. Communication is important.

A lot of ways of communication is strongest.I think best way is speak English.

I want to make friends from different countries! For that purpose,I must study English from now on.

Miki Ohnaka

Good experience

I experienced homestay for the first time by this dispatch.What is your best memory?There are too many even when asked and I can not narrow it down to one.Instead,I'll write about grateful feeling.

I fell awfully many times because I couldn't speak English well my self.But there were people who always helped me by my side. There are my friend,buddy,and my host family.They were strong supported in me.Also they gave me confidence.

I still remember the days I spent with them clearly.I'll never forget that.It was very hard to say goodbye to the friends I had with them.Even now I lonely and miss them.I will definitely go back to England again because I love

England! Thank you so much!
Until the day we meet again.



Koki Kato

My best memory

This was my first time overseas in England. When I arrived at the airport on the first day, I stepped into a place where I can't make myself understood in Japanese and was filled with anxiety and tension about whether I could really live for the next two weeks. Every program, including English lessons, debating at the BSDC, and visiting various facilities, was very enjoyable. It's thanks to our host family, my group members, and the people of the British town who treated us so kindly at any time. I am grateful to all the people I met during this training. I will never forget the experience of being able to go abroad as a high school student. Next time I want to study English harder and go back to England. At that time, my goal is to talk without using the translation function of my mobile phone. Then, I want to make good relationships with people in England and contribute to our friendship.

Hikari Masuda

"The best days"

This was my first time in the U.K.

I was so excited when I arrived to visit.

At first I was uneasy because I could not speak English.

However, when I mustered up my courage to talk, I was able to gain confidence in my English.

On the final day, my host mother said, " You improved your English. "

I was very happy when I heard that.

These two-week stay has been a precious experience for my future life.
Thank you very much.

Hanano Hirotaki

My first abroad

I went to Derbyshire in England.

At first,I was nervous because I had never been abroad.I took an airplane for long hours.I was very tired.

My hostfamily was very kind to me and my hostsister.When I met her for the first time,she talked a lot to us.I was glad because I was too nervous.

My best memory is cooking Japanese foods.We cooked curry and rice and okonomiyaki for our hostmother.It took about 2hours.I could talk with my friends.It was very fun.My hostmother looked happy.

I could make a lot of good memories.

Sae Shiratori

My special memories in the UK

I had a really good time in the UK.

I was very happy to meet everyone, especially my host family who were very kind to me.

I was very happy to stay at their house.

In addition, I enjoyed visiting Oxford with my host family on Sunday, 17th March.

I think they usually go to church on Sundays, but they changed their schedule and took us to Oxford.

I really appreciated that.

Also, I had precious experiences in BSDC.

Our buddies always helped us, and we enjoyed talking with each other in English.

I will never forget them.

I am proud that I visited the UK as one of



My host family



University of Oxford

the representative students of Toyota city.
If I have a chance, I would like to go there again.
Thank you for everything.

Sakura Ito

The most impressive thing for me was my way from school to home by bus. First of all, I couldn't understand the system. In Japan, The next destination is announced on many buses. In UK, we have to push button to get off without any signs. Sometimes I took over to the goal, sometimes I got on wrong bus. Each time I've lost, I became daunting. But my hostmother helped me. She had taken taxi for me and says "You do not need to be depressed." There were also people who worried and told me and drivers who told me where I wanted to get off. I realized that I was supported by a lot of people.

Akari Nakajo

Thank you to everyone

I had a very nice time and this two weeks became a unforgettable experience for me.

The best memory that I think is the day we announce about Japanese festival call "matsuri".

I am not good at making public announcements, but I was able to speak while seeing the other's face, and I had a sense of accomplishment after I finished.

Also, I was very happy to be able to use what I learned in school

I think in the future there will be more opportunities to make public presentations.

I would like to use this experience in the future without wasting it

Thank you very much.

Miko Kato

"the great time"

Thank you for two weeks.

I had a lot of experience in England, and I think it's very nice to go to the BSDC to learn British culture and professional. I was glad to meet a nice person who is

kind and fun. The host family was kind enough to make it easier for us to live. Their dinner was delicious every day and I liked everything. We went shopping with buddies. I cried when last day, because I wanted to talk and to go out more with them, and then they comforted me. I felt two weeks was a short time, but they are the best friends. I want to visit England again. I want to study a lot, and I want to take advantage of this experience and try various things from now on.

Keina Yamaoka

What I felt in England

In Japan, when shopping, you can only use one kind of money, namely Japanese yen.

By contrast, in the U.K. , I felt that there are many shops that can use the local pound sterling, the euro that can be used in the EU, and the dollar that is used in the US (though the Japanese yen could not be use).

This fact was very interesting for me.

Also, it can be said that this fact indicates that Britain has more international exchange than Japan.

Most people can enjoy shopping without trouble for payment no matter who the country comes from.

It can be recognized that this is a consideration for foreign tourists only in England, where many foreigners come.

Japanese people are starting to take care for foreign tourists towards the 2020 Olympics, but they will not look at money.

Since adding English notation to a signboard etc, is natural to consider from such a big side at first, I thought that I should think about what kind of consideration I should change from a different perspective.

Sho Yoshizaka

Memories of The U.K.

This two weeks stay in England was very enjoyable.

It was my first time in England.

I met many people and had many experiences.

The city in England had very good views and people were kind images.

And I learned the importance of meeting here.

It turned out that we can be friends, help each other, and share our hobbies by meeting different people.

From now on I would like to value my encounter and keep in touch with various people.

Finally, I am thankful to the buddy students and the people who worked with the 15 friends.

Thank you very much.

Miona Kitano

To see a lot of life

Two weeks have passed so fast that I couldn't even believe I already had finished this project. I am the happiest and luckiest person to have so many people who miss me. It was lovely to meet so many nice people and having a wonderful experience with them. Without my buddies, I couldn't be able to feel this. This experience will definitely help my future to work globally. I wish I could go back to BSDC when my English is better. I would thank all people who supported us. I'm truly happy to be a part of this program.

Mai Aoki

(1) BSDC

Although the students had some difficulties in the communication with host family or buddies, they tried to make good relationships with them. One of the buddies, who is the representative of his course at BSDC, said "I like to help other people." They helped Japanese students very hard. Their dedicated support enabled Japanese students to understand what was going on in the activities. Through the experience which the students can't do in Japan, most of the students could learn many things.

(2) Host family

My host family is really kind to me. Even though they are busy with their job, they were always concerned about not only me but also other Japanese students. When I had some trouble, they helped me and always gave some advice to me. This made me relieved and relaxed. It was a valuable experience for me to stay at a British family.

(3) The Culture Show

Last November, the workshop started and the students discussed the theme of the

culture show. They decided the theme of their performance and what they wanted to tell to the people in Britain. They would like the people in Britain to know Toyota city, so they chose Japanese Matsuri to introduce. They practiced Oiden dance and presentation which shows what Japanese Matsuri is like. On 20th March, we had the culture show. Japanese student were nervous because a lot of guests came to the show. However, their performance was so great that the guests gave them applause.

(4) Overall

I believe now the students are not what they were two weeks ago. I would like the students to tell everything that they experienced in Britain to the people around them, their friends and family. This experience, such as British weather, British dishes, host family, the places they visited, and of course, how their skill of speaking English improved, will inspire the students. Moreover, this experience will influence their way of thinking and their way of living in the future. I do believe they were able to gain confidence in not only the English ability but also the attitude dealing with difficulties.

I would like to express my gratitude to all the people who have been engaged in this project and to British people who gave us great hospitality. I hope the relationship between Derbyshire and Toyota city will be stronger through this project.

Noriko Otsuki

My impressive memories in the UK

Toyotahigashi H.S. Noriko Otsuki

Burton and South Derbyshire College(BSDC) has a large number of students and each of them majors in various kinds of courses and levels. It is partly similar with my high school , which means it's very familiar to me.

Japanese students learned a lot through BSDC programs.

(1) Learning programs by experience

BSDC has good training facilities for learners. First of all, Mulberry Restaurant & Bistro for their professional teaching kitchens and restaurant. Japanese students learned about British cuisine and cookery there. They were so excited to enter their professional teaching kitchens and restaurant. They were also thrilled to cook and

eat "Afternoon Tea" there. Secondly, Shobnall Leisure Park for teaching sports trainers skills. Japanese students and BSDC learners played a tag rugby, basketball, badminton and table tennis. They had a great time and these experiences made them relaxed and showed them it's possible to get along with BSDC learners. Even if they didn't speak English well, they could communicate with them and understand each other. Also, traveling to London, Sudbury Hall and Lichfield helped them learn about history and culture in the UK.

(2) The staff and buddies at BSDC

They had a great hospitality. Ann and Stephanie as a staff were guardians, teachers, friends, host sisters and host mothers for Japanese students. Buddies were very gentle and showed a good model to Japanese students. I was appreciative for their wonderful support throughout my stay.

I took a lot of pictures during my stay in the UK. When I saw these pictures again I noticed they studied very hard and all tried their best. They looked very motivated to learn. Japanese students learned a lot of things through BSDC programs, home stay and all the people whom they met. I hope that these precious experiences help them to seize their dreams. I am very grateful to join this program as a teacher.

豊田市・ダービーシャー姉妹都市交流資料

1 姉妹都市名 イギリス ダービーシャー3地域
(ダービーシャー県、ダービー特別市、南ダービーシャー市)

2 提携年月日 平成10年(1998年)11月16日

3 提携目的 両国民が真の友情を育むことを念願し、互いに協力し合い、
融和を促し、相互の文化理解を深めることを目的とする。

4 中学生交換派遣事業

年	学生	団長	副団長	引率教諭	計
平成13年(2001年)	20	1	1	1	23
平成14年(2002年)	20	1	1	1	23
平成15年(2003年)	20	1	1	1	23
平成16年(2004年)	20	1	1	1	23
平成17年(2005年)	26	1	1	1	29
平成18年(2006年)	26	1	1	1	29
平成19年(2007年)	26	1	1	1	29
平成20年(2008年)	26	1	1	1	29
平成21年(2009年)	26	1	1	1	29
平成22年(2010年)	26	1	1	1	29
平成23年(2011年)	27	1	1	1	30
平成24年(2012年)	27	1	1	1	30
平成25年(2013年)	27	1	1	1	30
平成26年(2014年)	27	1	1	1	30
平成27年(2015年)	27	1	1	1	30
平成28年(2016年)	27	1	1	1	30
平成29年(2017年)	28	1	1	1	31
平成30年(2018年)	28	1	1	1	31
計	454	18	18	18	508

5 訪問団の交流

	年	内 容
ダービーシャー→ 豊田市	平成 11 年 (1999 年)	ダービーシャー青少年吹奏楽団 63 人が来豊。市各所で演奏を行う。また 2 月 17 日には姉妹都市携記念碑除幕式を行う。
豊田市→ ダービーシャー	平成 13 年 (2001 年)	第 1 回ダービーシャー県等親善訪問 (25 名) 平成 13 年 6 月に完成する豊田スタジアムに因んで、サッカー関係者が姉妹都市を親善訪問。現地チームとの親善試合、英国プレミアリーグ地元チームの試合観戦等を通して交流を行う。
豊田市→ ダービーシャー	平成 14 年 (2002 年)	第 2 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問 (22 名) 現地アマチュアカメラマンとの交流を通じて、写真撮影を行う。帰国後は、松坂屋 T-FACE8 階サンシャインホールでの写真展を始め、市内各交流館を循環し写真展を行ない、市民にダービーシャー県等を紹介する。
豊田市→ ダービーシャー	平成 15 年 (2003 年)	第 3 回ダービーシャー県等豊田市民使節団訪問 (23 名) ガーデニングをテーマに、ダービーシャー県等を親善訪問。個人庭園や公共施設の花飾りを視察し、豊田市のまちづくりに活かす。
豊田市→ ダービーシャー	平成 16 年 (2004 年)	豊田文化使節団 (日本文化を紹介する伝統芸能 (邦楽・民謡・三曲等) による演奏集団 (38 名)) を結成、演奏会やワークショップ等を通じて姉妹都市との市民レベルの交流を深め、文化による国際親善に寄与する。あわせて、豊田市における文化レベルアップを図り、2005 年「愛・地球博」を広くアピールする。
ダービーシャー →豊田市	平成 17 年 (2005 年)	ダービーシャー青少年ジャズオーケストラ 30 人が来豊。市内各所で演奏を行う。また万博英国ナショナルデーの 4 月 22 日には、万博会場にて公演を行う。
ダービーシャー →豊田市	平成 20 年 (2008 年)	姉妹都市提携 10 周年を記念してダービーシャー県からのアーティスト (コンテンポラリー・ダンサー) 及び青少年合唱団 (27 名) を受入。

豊田市→ ダービーシャー	平成 20 年 (2008 年)	姉妹都市提携 10 周年を記念して豊田市からアーティスト (三味線演奏者)、ジュニアオーケストラ (42 名) 及び市民文化使節団 (37 名) を派遣。姉妹都市提携 10 周年を記念して鈴木市長がダービーシャー県等を訪問。
豊田市→ ダービーシャー	平成 25 年 (2013 年)	豊田市少年少女合唱団の派遣 (56 名)、豊田市ダービーシャー公式訪問団の派遣 (10 名)、ダービーシャーフード&ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。
ダービーシャー →豊田市	平成 25 年 (2013 年)	「とよた産業フェスタ」へのダービーシャー紹介コーナーの出展とダービーシャーからの参加団 (6 名) 受入。また、ダービーシャー青少年吹奏楽団 (52 名)、ダービーシャー公式訪問団 (9 名) を受入。
豊田市→ ダービーシャー	平成 26 年 (2014 年)	ダービーシャーフード&ドリンクフェスティバル出展のため豊田市職員等を派遣。
豊田市→ ダービーシャー	平成 30 年 (2018 年)	姉妹都市提携 20 周年を記念して豊田市ダービーシャー少年サッカー派遣団 (22 名) をダービーシャー等へ派遣。
ダービーシャー→ 豊田市	平成 30 年 (2018 年)	「とよた産業フェスタ」へのダービーシャー紹介コーナーの出展のため、ダービーシャーからの参加団 (4 名) を受入。
豊田市→ ダービーシャー	平成 30 年 (2018 年)	姉妹都市提携 20 周年を記念して豊田市から公式訪問団 (5 名) を派遣。
ダービーシャー→ 豊田市	平成 30 年 (2018 年)	姉妹都市提携 20 周年を記念してダービーシャーから公式訪問団 (17 名) を受入。

6 その他

	年	内 容
豊田市→ ダービーシャー	平成 13 年 (2001 年)	鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問 (今後の姉妹都市交流のあり方に関する協議)
豊田市→ ダービーシャー	平成 14 年 (2002 年)	鈴木市長ダービーシャー県等親善訪問 (ダービー特別市市制 25 周年記念式典への出席)

—	平成 14 年（2002 年）	英国大使館の植林活動「日英グリーン同盟」への参加表明のため、イングリッシュオークの植樹を実施。
ダービーシャー →豊田市	平成 17 年（2005 年）	ダービーシャー県・ダービー特別市・南ダービーシャー市、フrintシャー市の各事務総長と英国トヨタ自動車(株)のスタッフが来豊。(本市との文化交流について協議)
ダービーシャー →豊田市	平成 19 年（2007 年）	ダービーシャー県議員デイブ・ウィルコックス氏、姉妹都市担当ステファニー・ウォルシュ氏来豊（2008 年（平成 20 年）の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ）
ダービーシャー →豊田市	平成 20 年（2008 年）	南ダービーシャー市議長マイケル・ベイル氏夫妻来豊（2008 年（平成 20 年）の姉妹都市提携 10 周年記念事業の打合せ）
豊田市→ ダービーシャー	平成 24 年（2012 年）	太田市長ダービーシャーを訪問。 （2013 年（平成 25 年）姉妹都市提携 15 周年記念事業打合せ）
—	平成 25 年（2013 年）	姉妹都市提携 15 周年記念式典を豊田市能楽堂にて開催。また、姉妹都市提携 15 周年を記念して、豊田市とダービーシャーの中学生が、1 つのテーマについて共に考え、意見交換を行う「豊田・ダービーシャー子ども会議」を開催。
豊田市→ ダービーシャー	平成 26 年（2014 年）	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。
豊田市→ ダービーシャー	平成 27 年（2015 年）	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。
豊田市→ ダービーシャー	平成 28 年（2016 年）	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。
豊田市→ ダービーシャー	平成 29 年（2017 年）	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。
豊田市→ ダービーシャー	平成 30 年（2018 年）	ダービーシャーへの豊田市職員派遣の実施。



Golden Days Abroad in Derbyshire
～ 姉妹都市ダービーシャーを訪ねて ～ 2019

第5回ダービーシャー高校生派遣帰国報告書
編集・発行 豊田市 経営戦略部 国際まちづくり推進課
〒471-8501 豊田市西町3-60 TEL0565-34-6963
e-mail : kokusai@city.toyota.aichi.jp